



諸
礼
集
七

787
7



口
787
卷

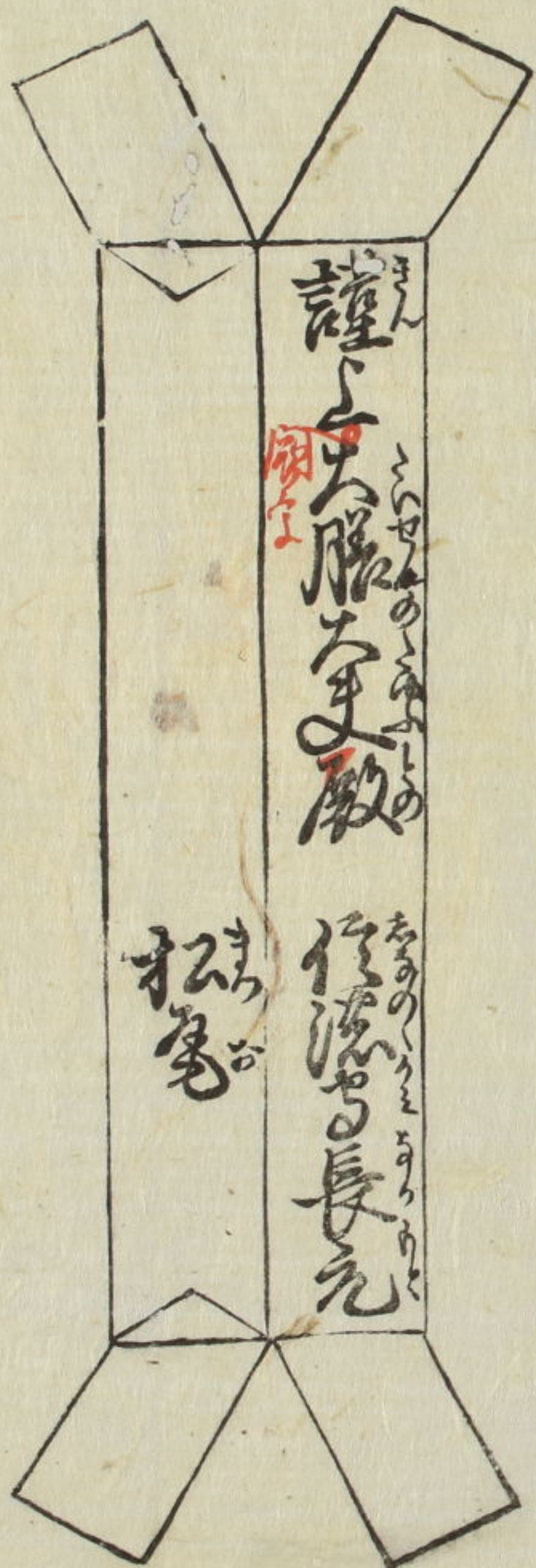
一
謹上書

謹上書。中戸と申す。乃、
松尾

謹上

松尾

松尾



謹上書

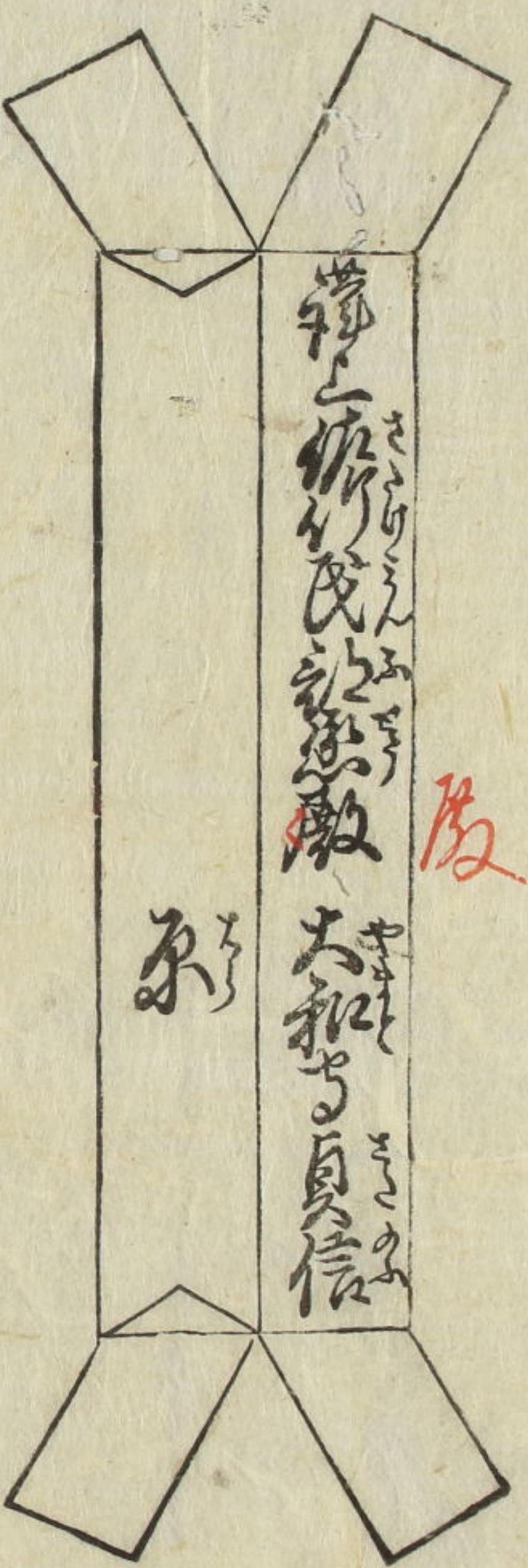
松尾

松尾

謹上書。中戸と申す。乃、
松尾

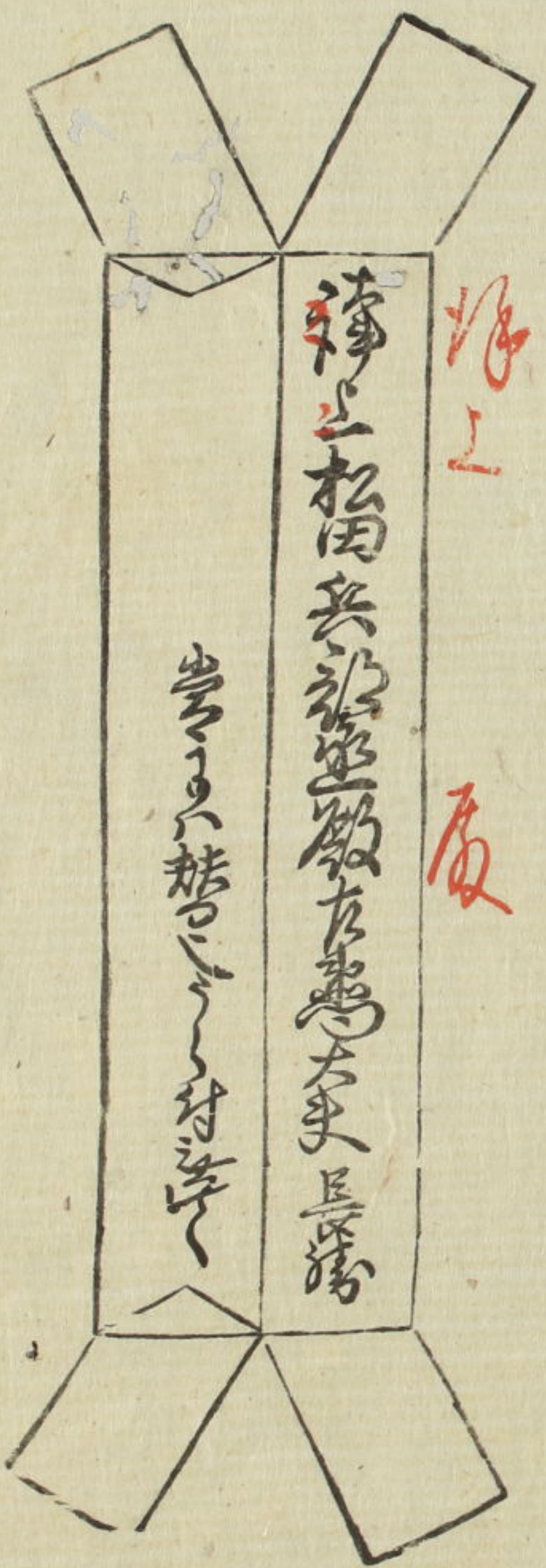
松尾

一 備上様へ此の御手紙にて御返事願ひの御座り候へば
文書に下付し候へば御座り候へば



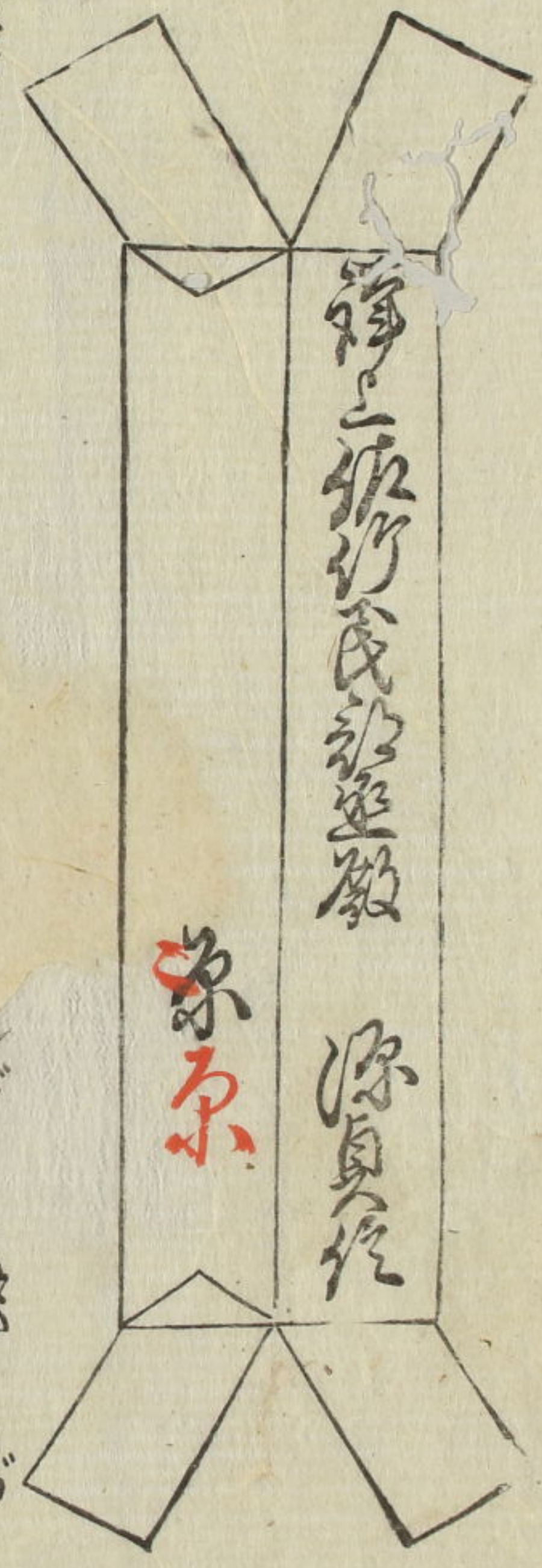
一 是は御返事にて御座り候へば御返事願ひの御座り候へば
文書に下付し候へば御座り候へば

一 備上様へ此の御手紙にて御返事願ひの御座り候へば
文書に下付し候へば御座り候へば



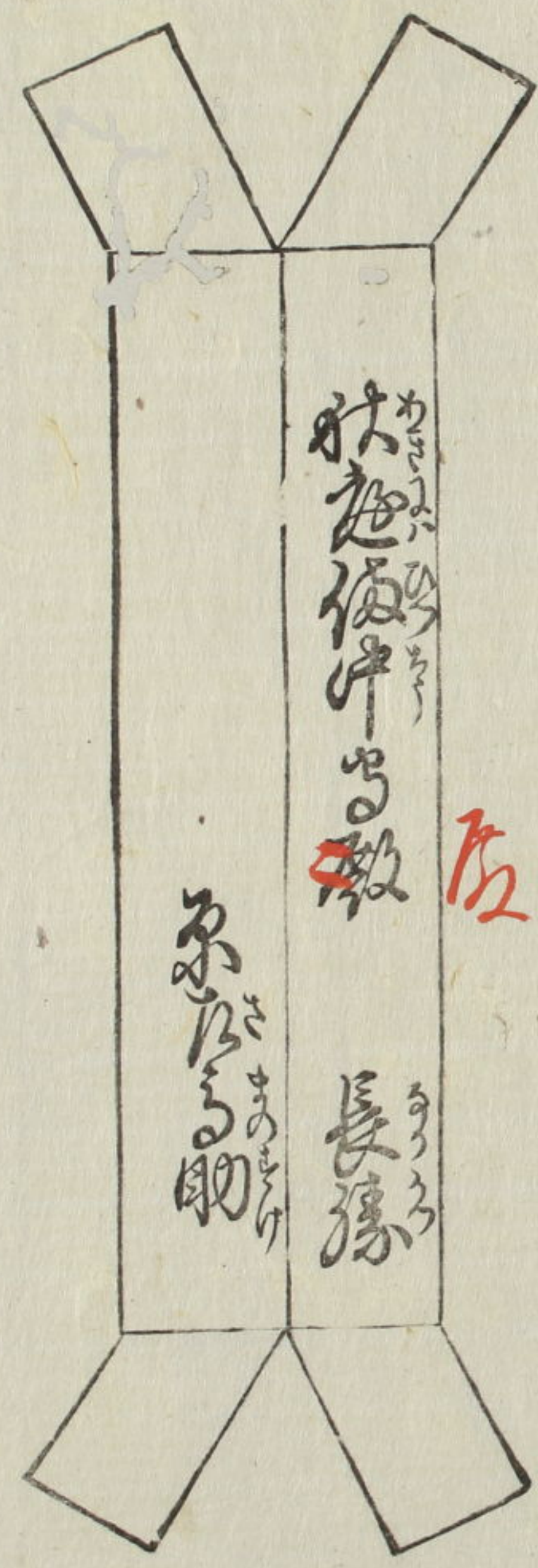
一 是は御返事にて御座り候へば御返事願ひの御座り候へば
文書に下付し候へば御座り候へば

一 江戸下町三軒の主人町田宗久様へ
 時にお知らせの事
 一 江戸下町三軒の主人町田宗久様へ
 時にお知らせの事



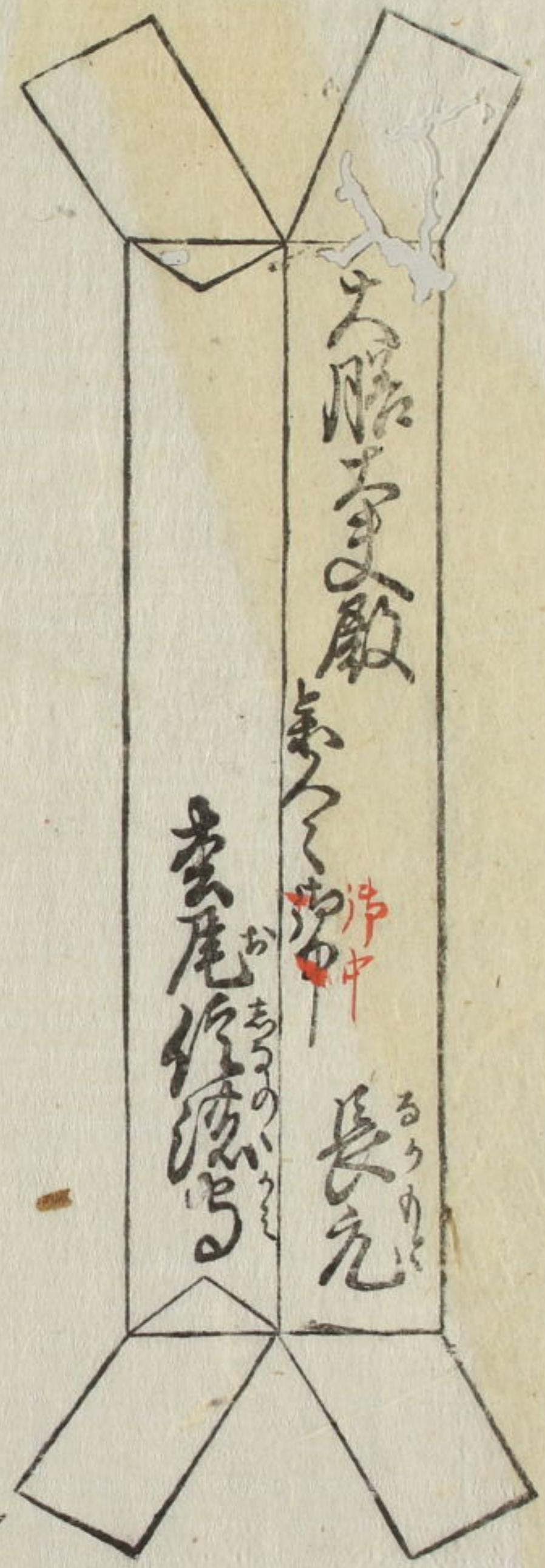
一 江戸下町三軒の主人町田宗久様へ
 時にお知らせの事

一 江戸下町三軒の主人町田宗久様へ
 時にお知らせの事



一 江戸下町三軒の主人町田宗久様へ
 時にお知らせの事

一 此の書札の紙は、せん紙のまゝなり。紙の質のよき紙
 は、この紙の紙一



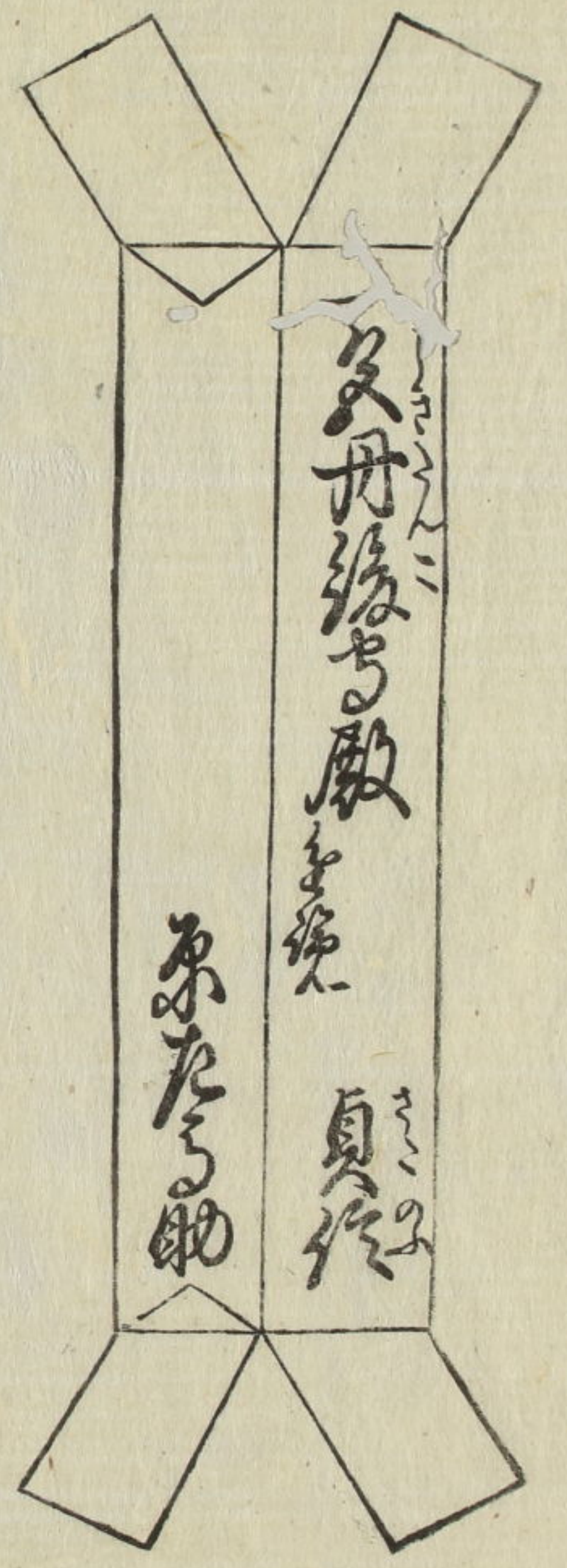
一 この紙の紙のよき紙は、この紙の紙一
 一 この紙の紙のよき紙は、この紙の紙一

一 この紙の紙のよき紙は、この紙の紙一



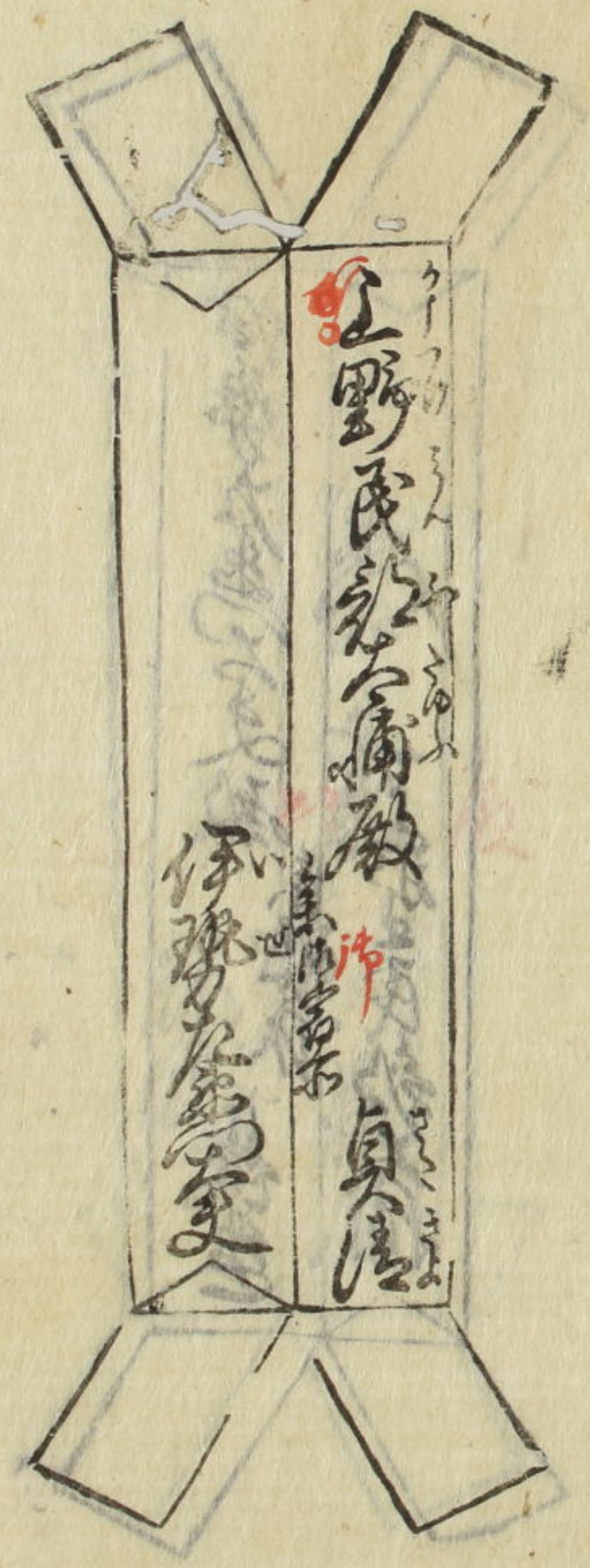
一 この紙の紙のよき紙は、この紙の紙一

一 是ハハルニ書カケノ...
 のハハルニ書カケ



一 是ハハルニ書カケノ...
 ...ノハハルニ書カケ

一 是ハハルニ書カケノ...



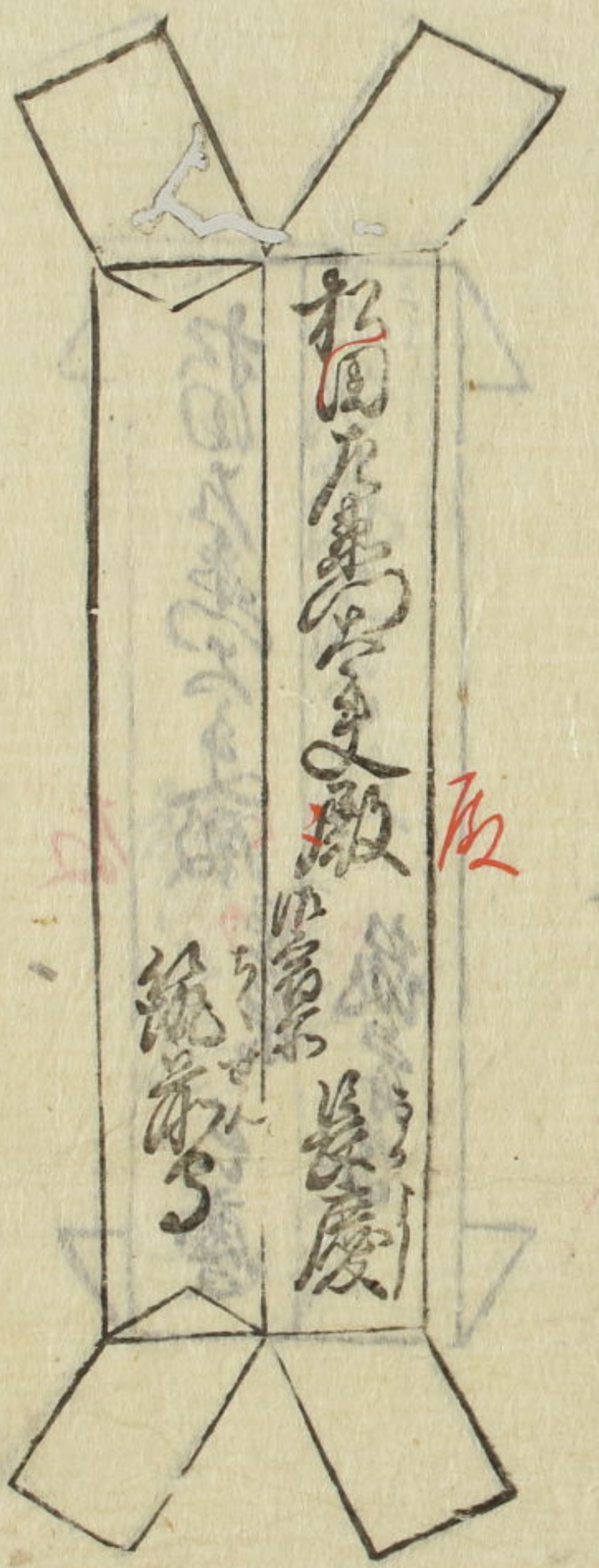
一 是ハハルニ書カケノ...
 ...ノハハルニ書カケ

一 水乃時...
 水乃時...
 水乃時...
 水乃時...



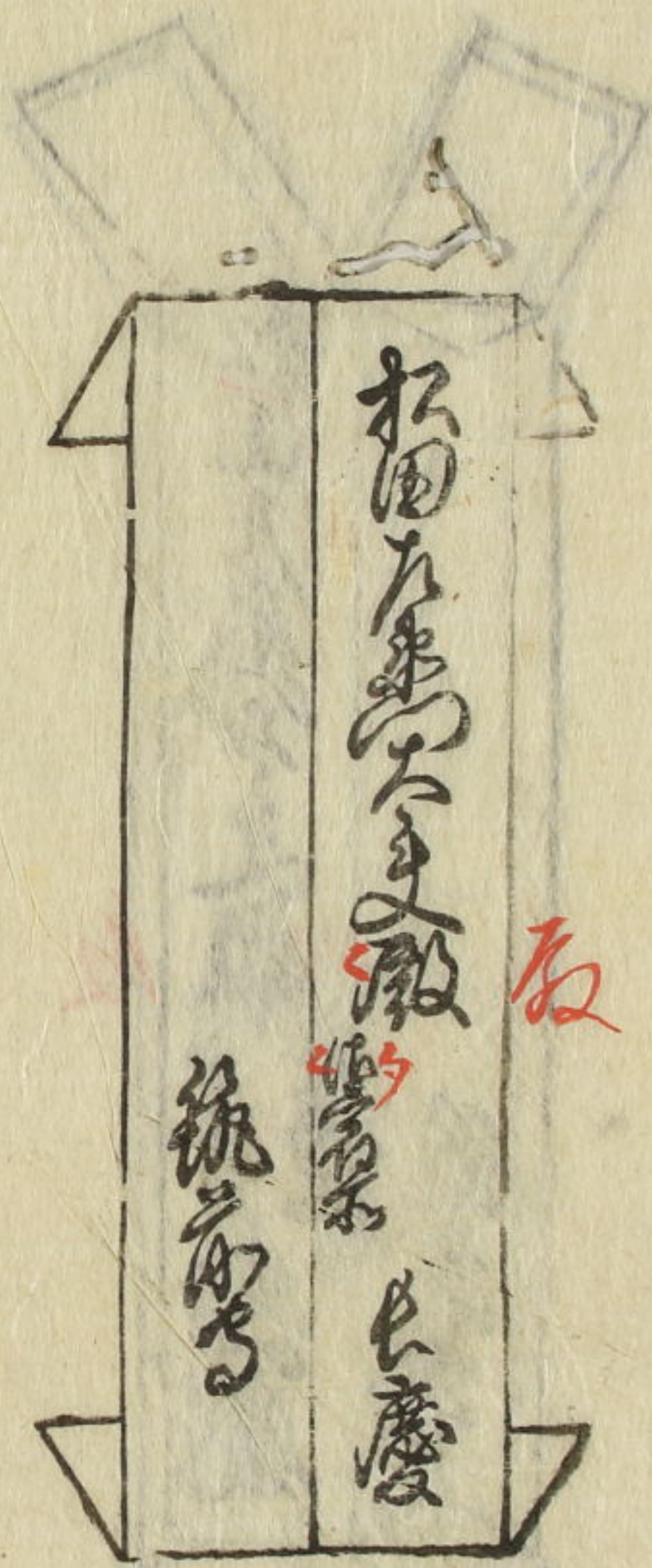
一 此...
 此...
 此...
 此...

一 此...
 此...
 此...
 此...



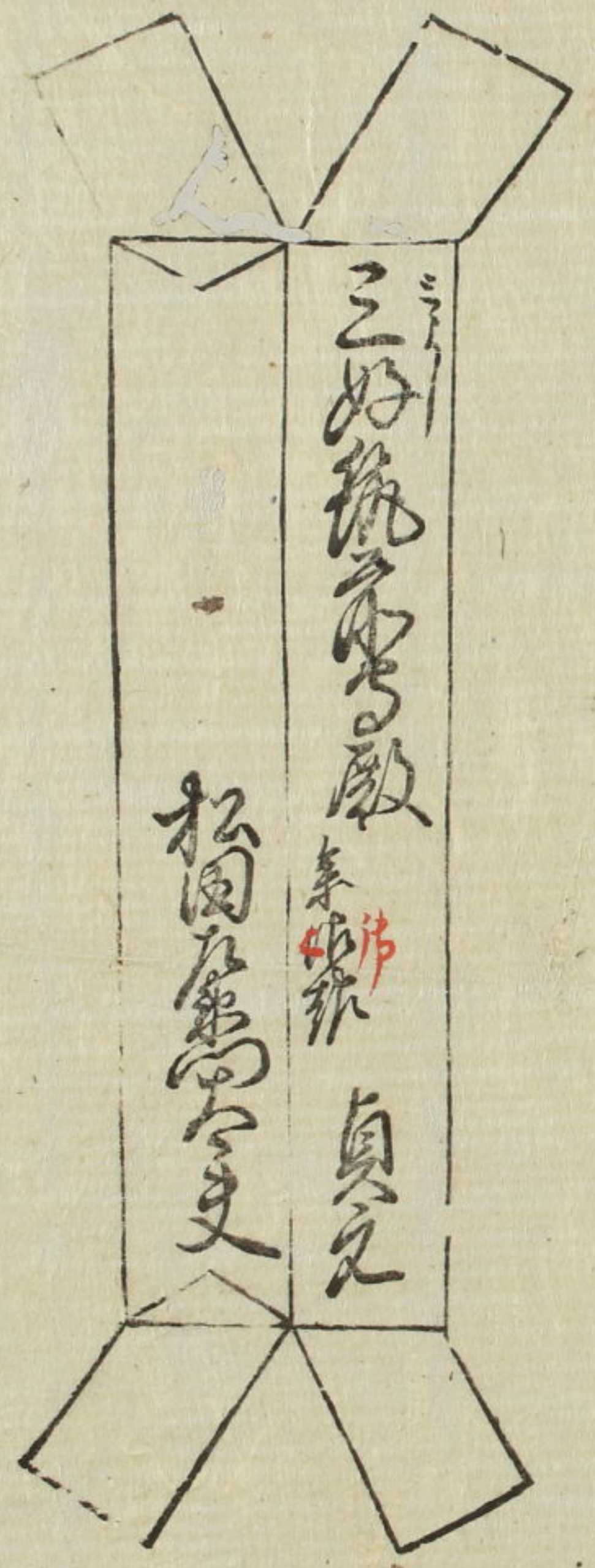
一 此...
 此...
 此...
 此...

一 下巻の烟草うらり カ 此 カ 亦 カ あり



一 是ハハ系下巻ハハ系 カ 亦 カ あり

一 是ハハ系 カ 亦 カ あり



一 是ハハ系 カ 亦 カ あり

一 回又くのみあつてむらあつてふかへ

七

七



一 此の箱はふかあつてむらあつてふかへ
 一 此の箱はふかあつてむらあつてふかへ
 一 此の箱はふかあつてむらあつてふかへ

一 下等の紙あつてむらあつてふかへ
 一 下等の紙あつてむらあつてふかへ

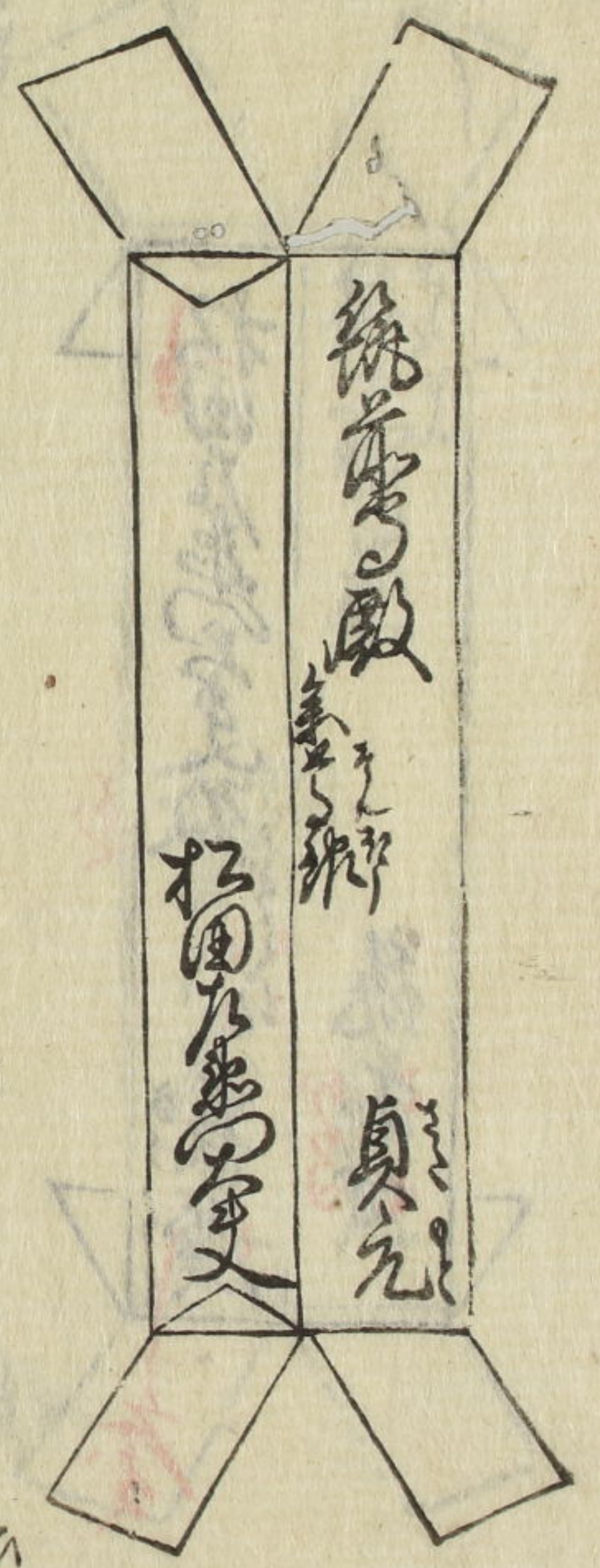


一 此の箱はふかあつてむらあつてふかへ
 一 此の箱はふかあつてむらあつてふかへ

友又也

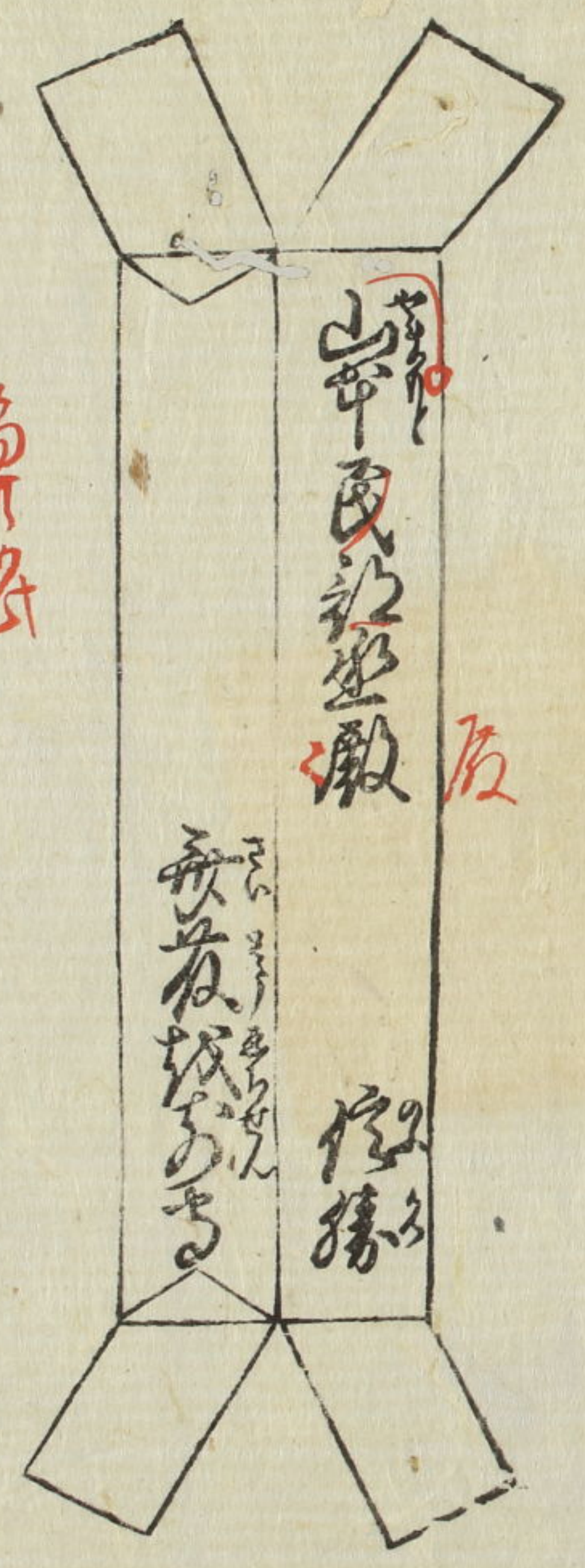
一 此のうき尾の形のものとする

Handwritten notes in cursive script, likely describing the paper or the object being illustrated.



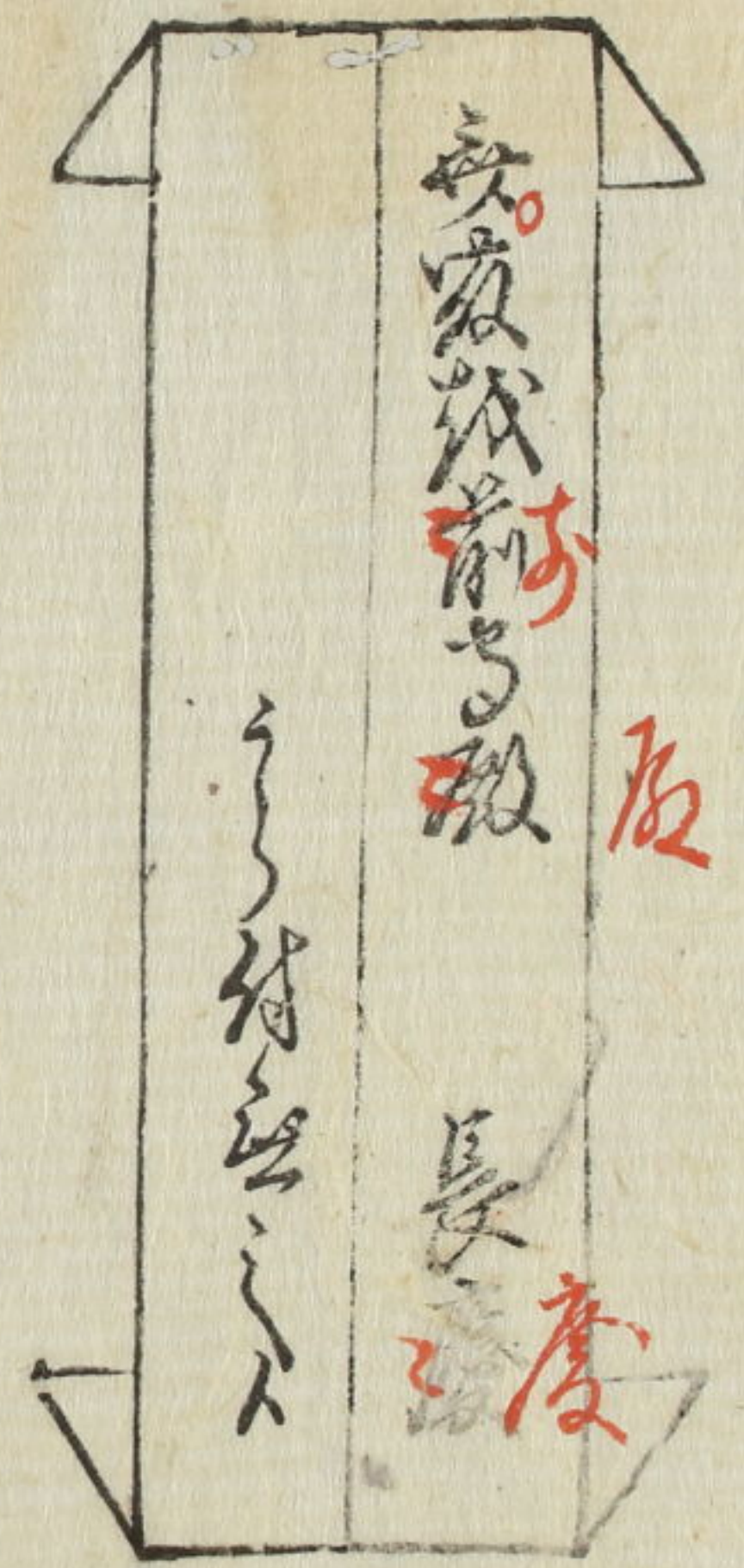
一 此のうき尾の形のものとする
一 此のうき尾の形のものとする
一 此のうき尾の形のものとする

一 此のうき尾の形のものとする



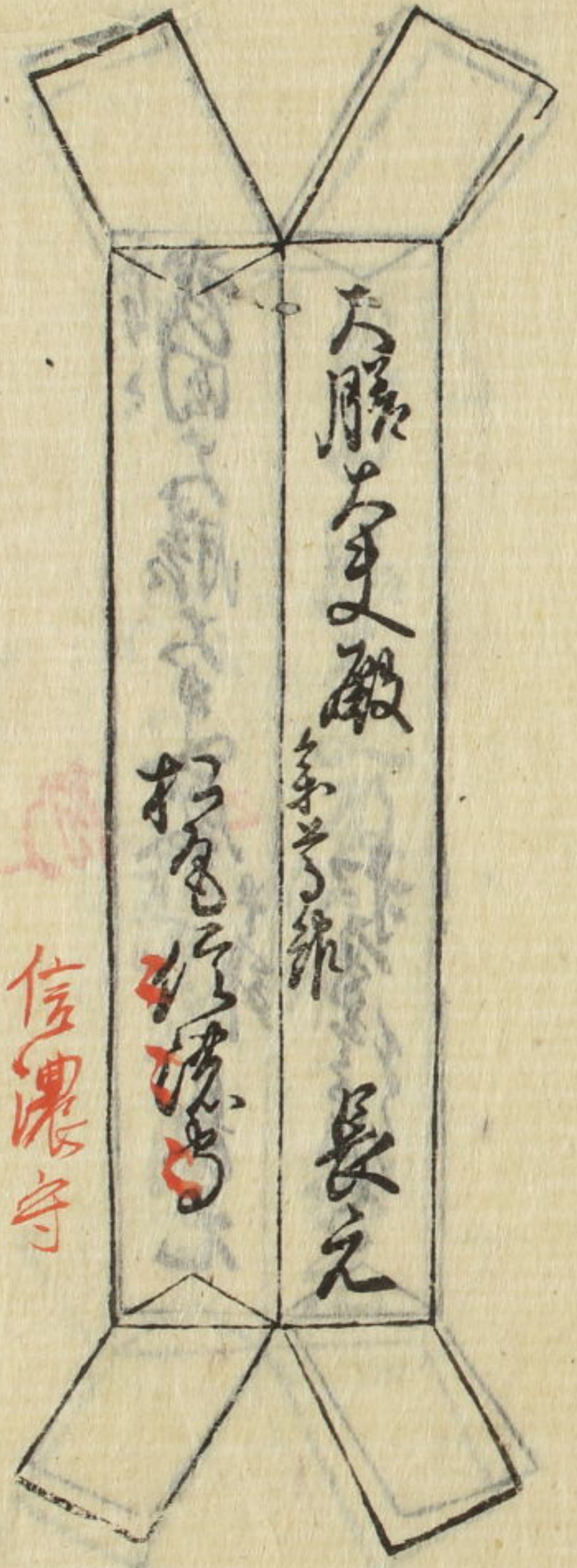
一 此のうき尾の形のものとする
一 此のうき尾の形のものとする
一 此のうき尾の形のものとする

一 此の如くありては
 いろりひらり
 いろりひらり



一 此の如くありては
 いろりひらり

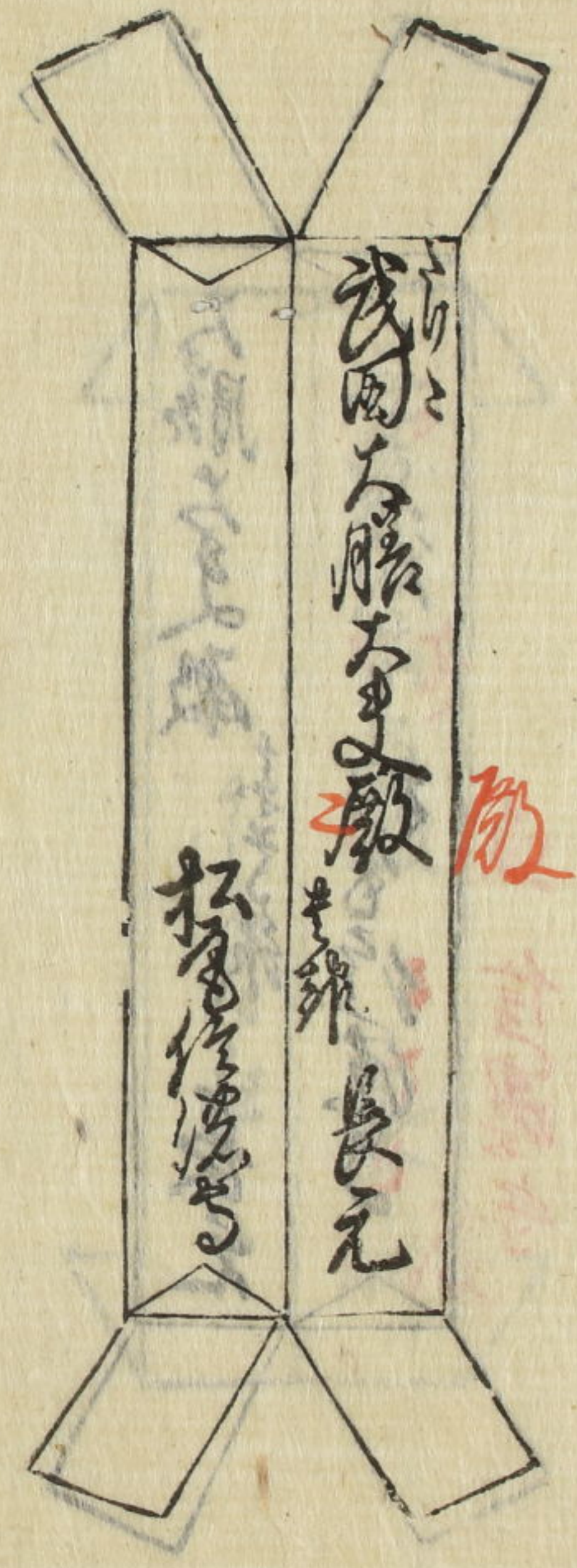
一 此の如くありては
 いろりひらり



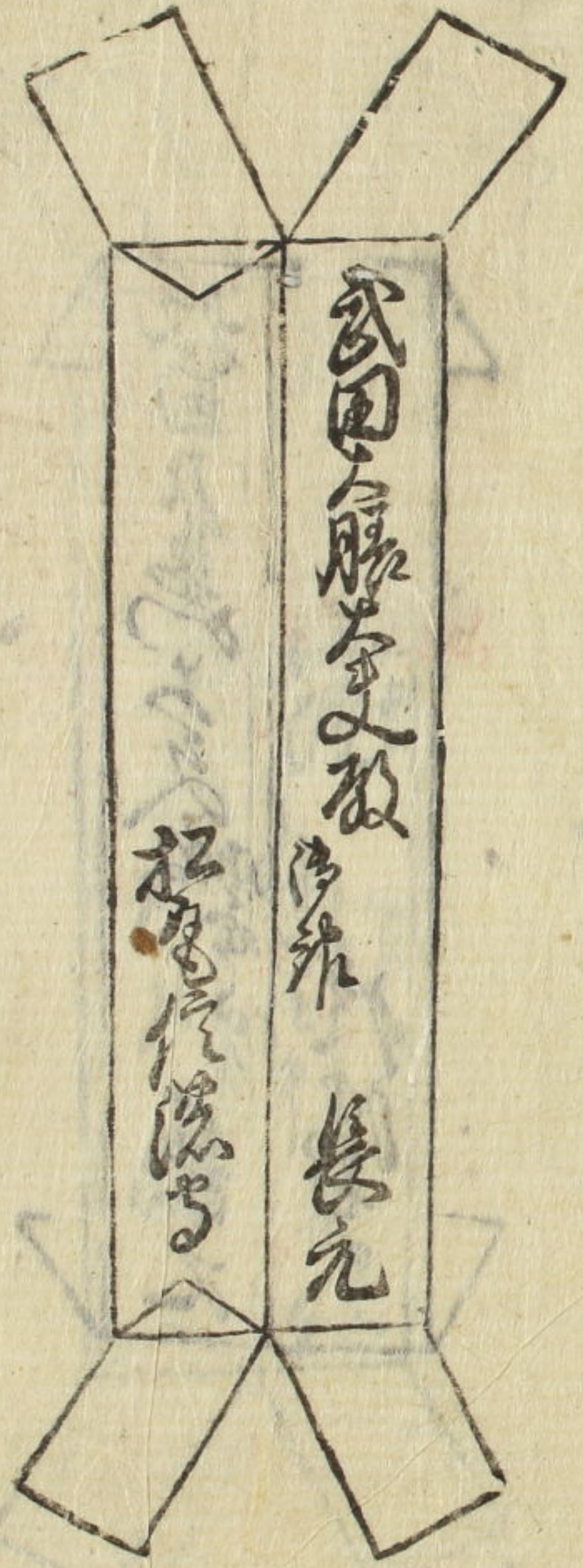
一 此の如くありては
 いろりひらり

一 此の如くありては
 いろりひらり

1 武田の腹を敵
2 松平信濃守

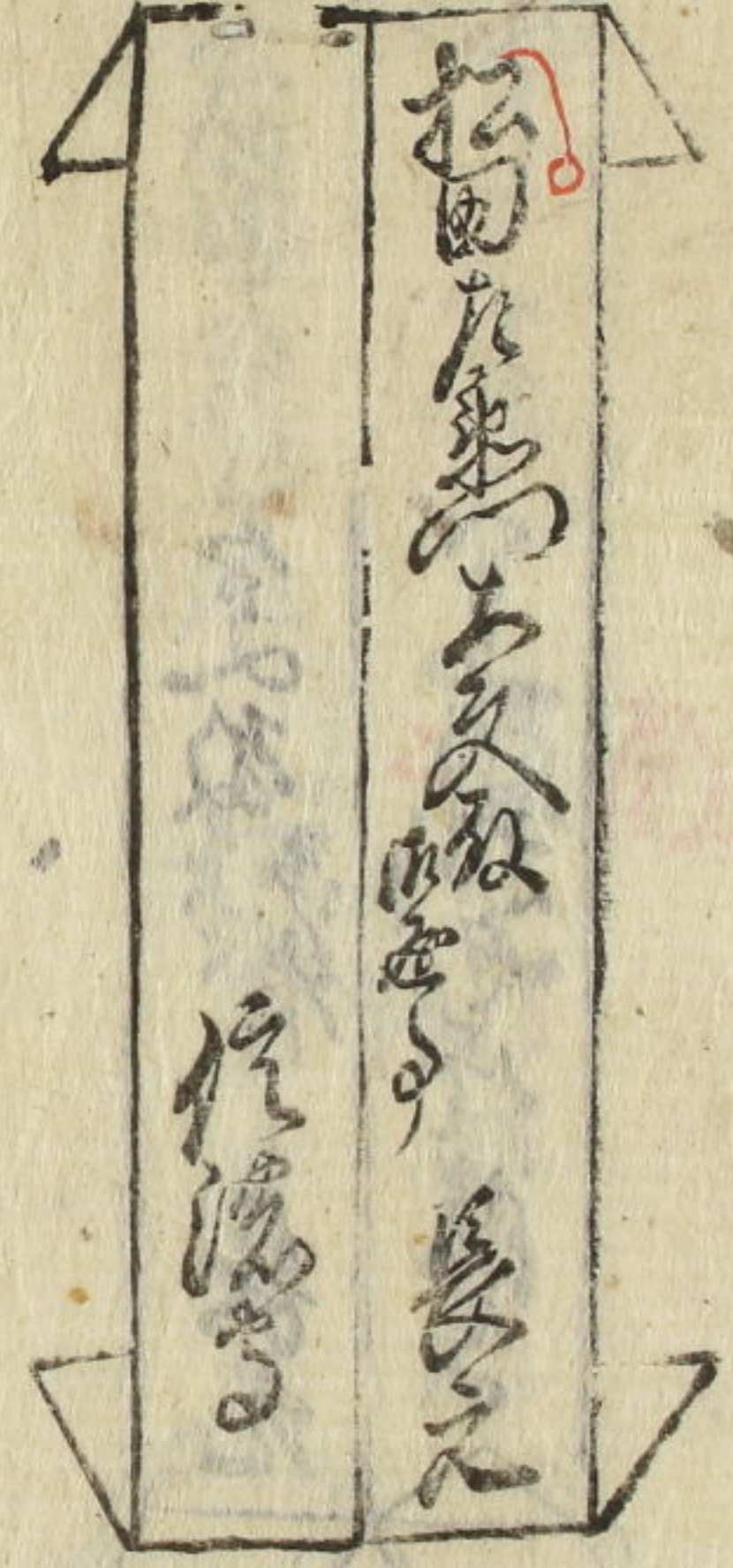


1 武田の腹を敵
2 松平信濃守



1 武田の腹を敵
2 松平信濃守

一 中身のせき...乃烟あり...
ハ...



一 ...
...

一 ...
...

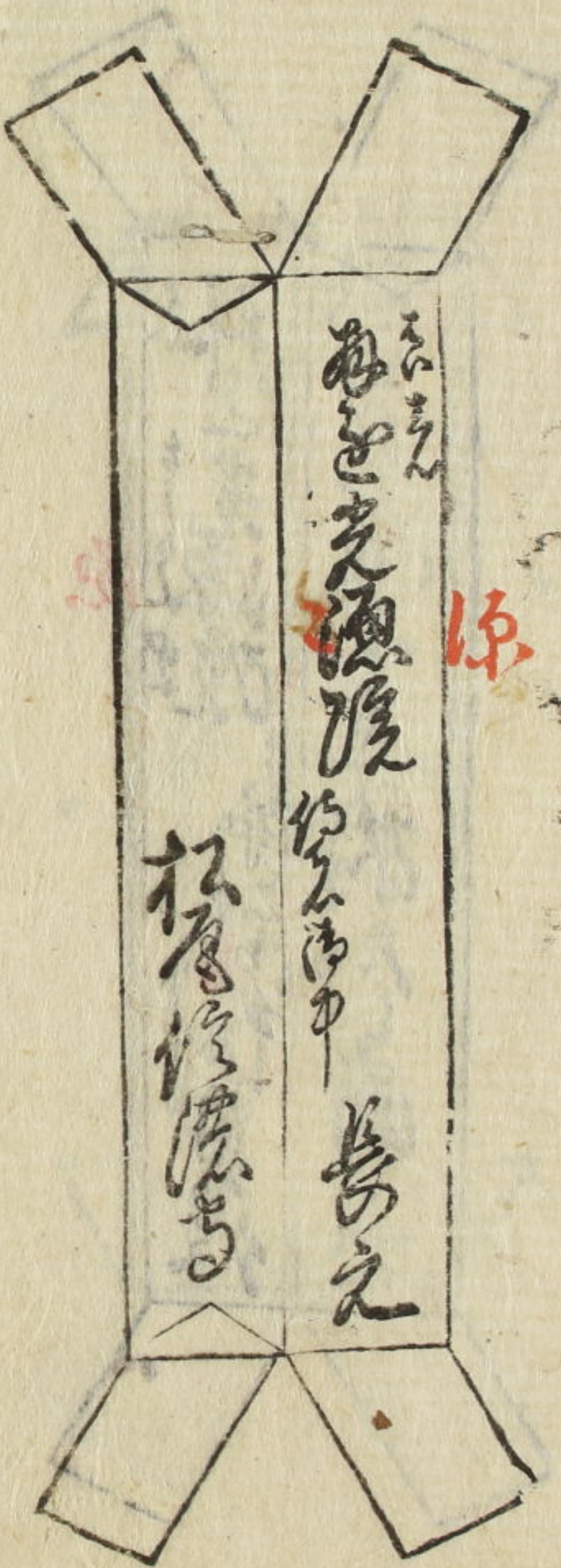


一 ...
...

一 御光徳院 長元

七

十一



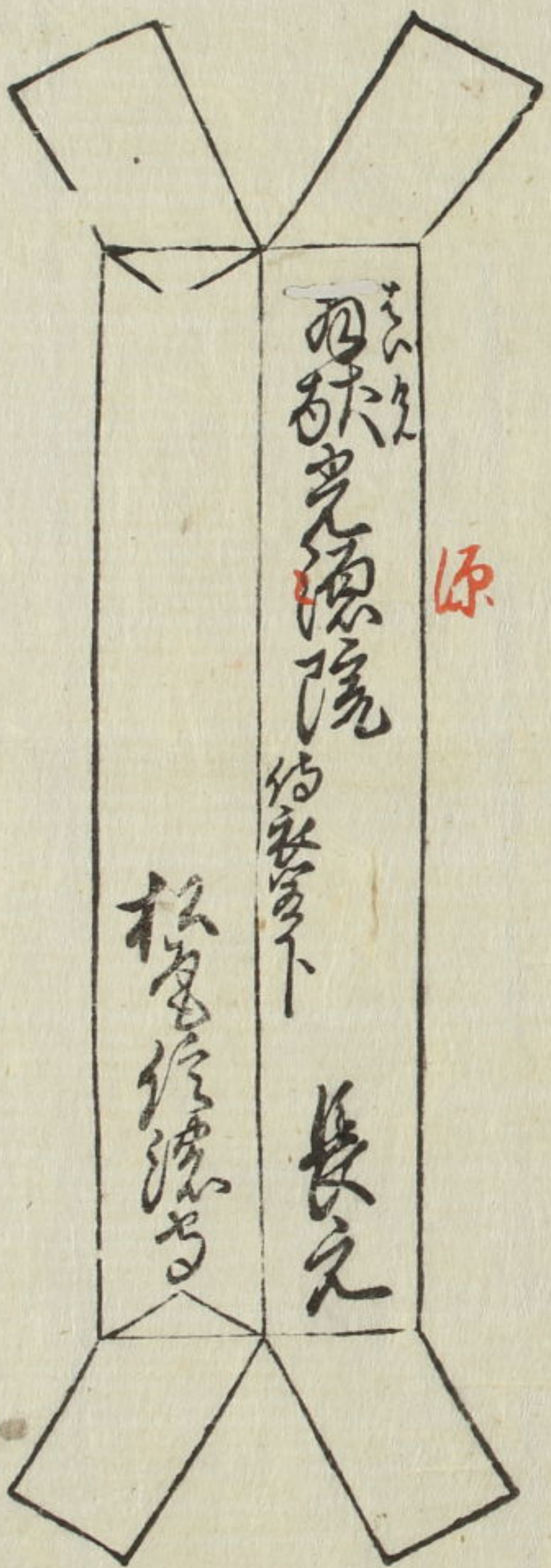
御光徳院

長元

松平信濃守

一 御光徳院 長元 松平信濃守

一 御光徳院 長元 松平信濃守



御光徳院

長元

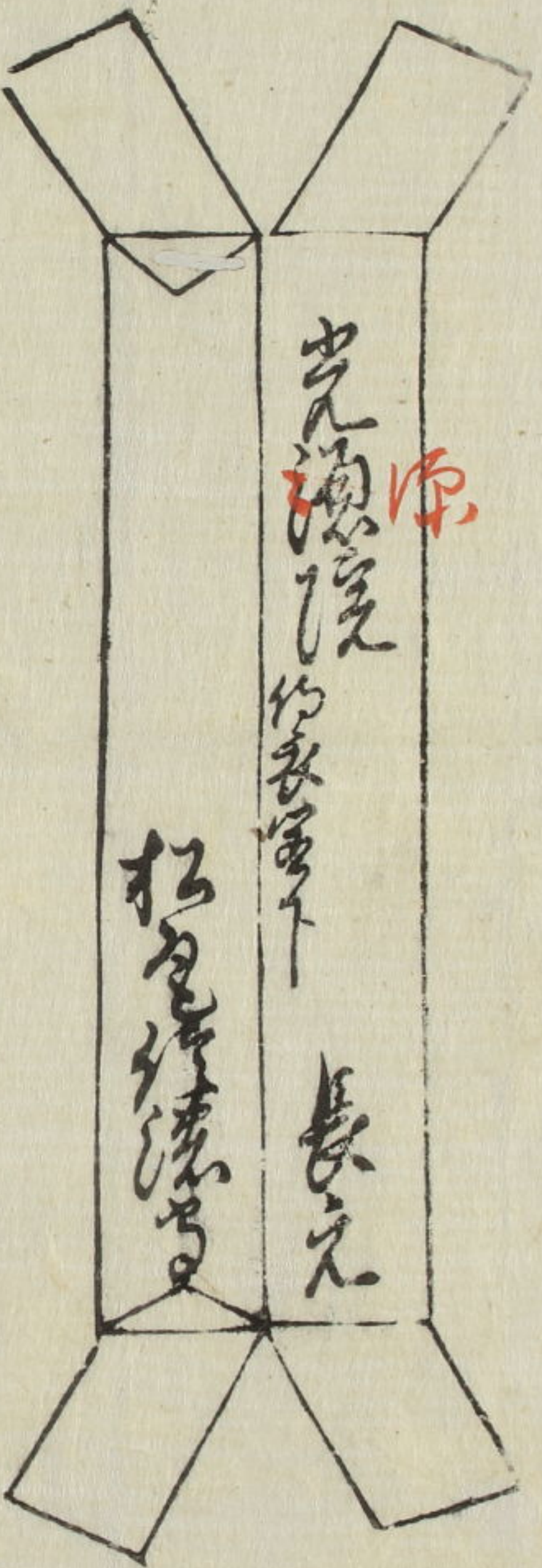
松平信濃守

一 御光徳院 長元 松平信濃守

七

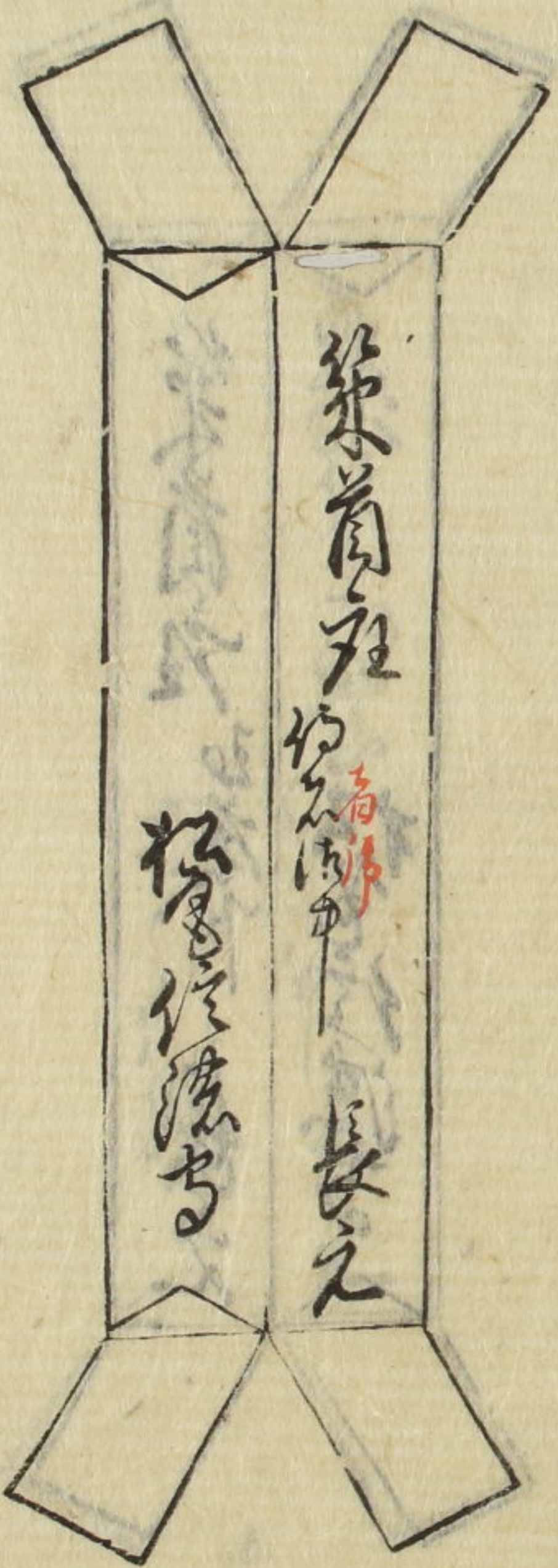
十一

一 此の封筒は、
光通院
松尾清光
長元



一 此の封筒は、
光通院
松尾清光
長元

一 此の封筒は、
光通院
松尾清光
長元



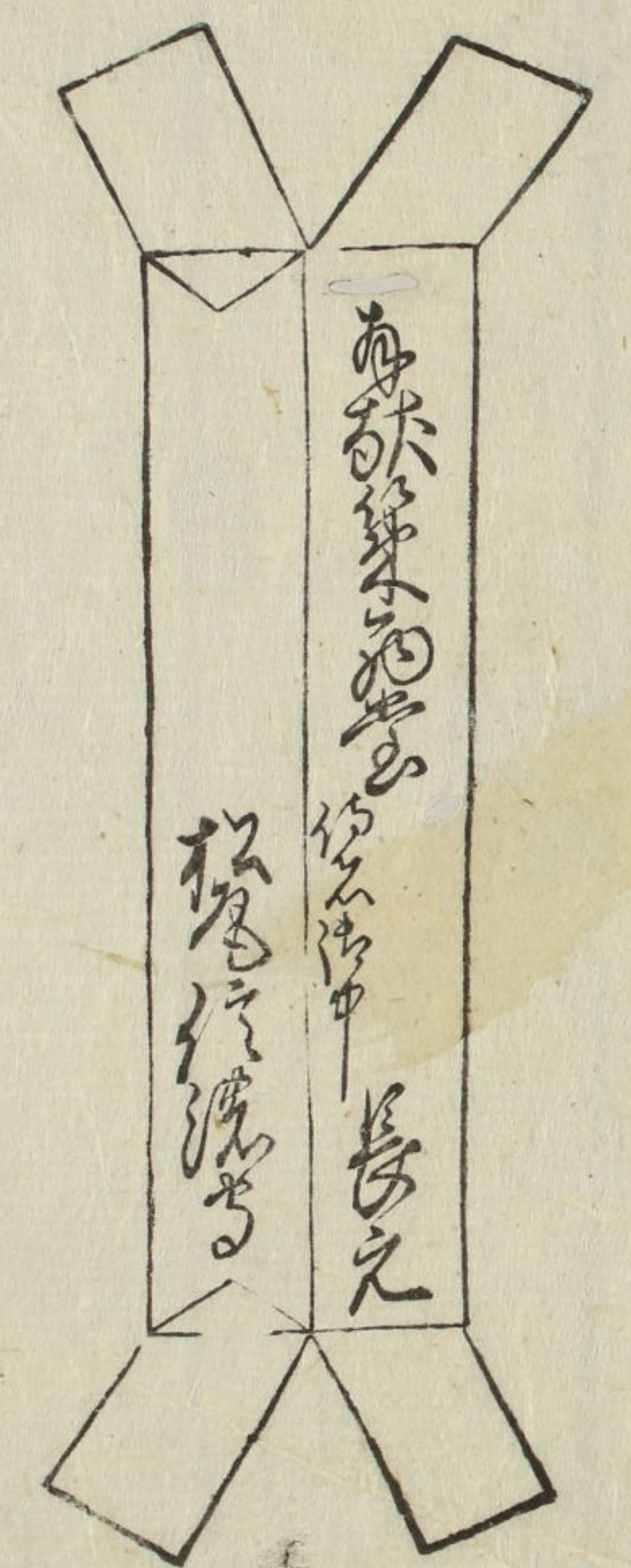
一 此の封筒は、
光通院
松尾清光
長元

一 首座の人の名も何れもか
 何れもか



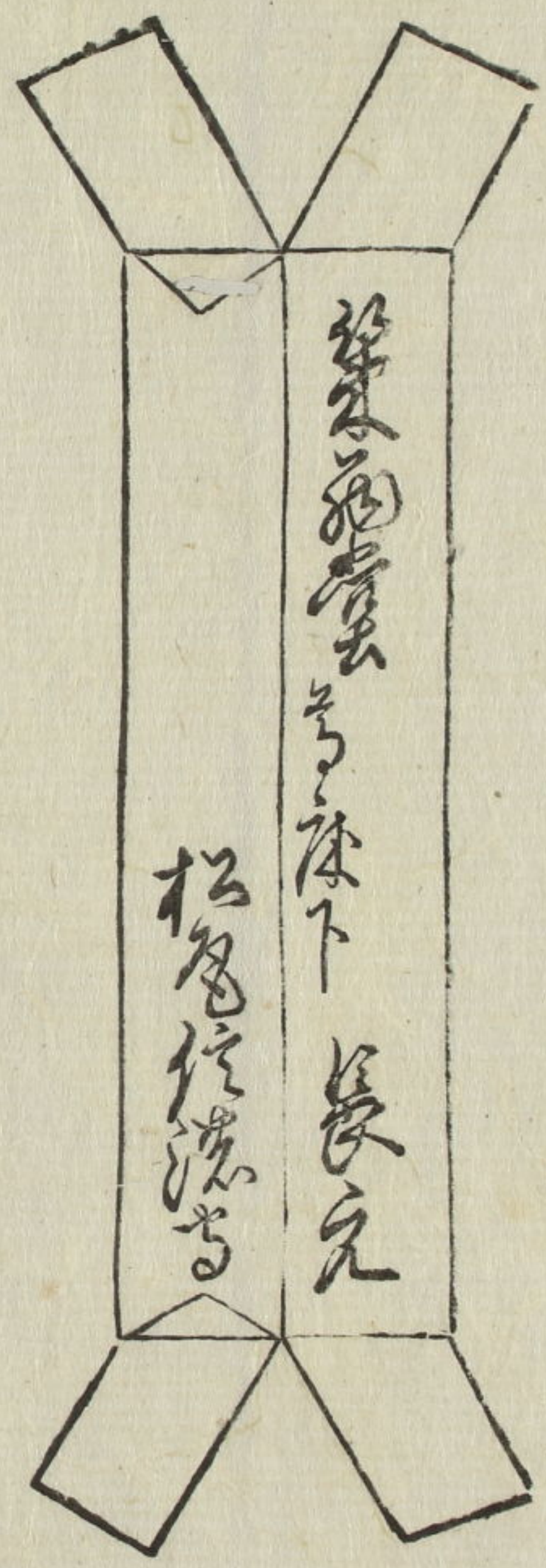
一 印の下の字もか
 一 座下は下の人か

一 箱の下の字もか
 一 座下は下の人か



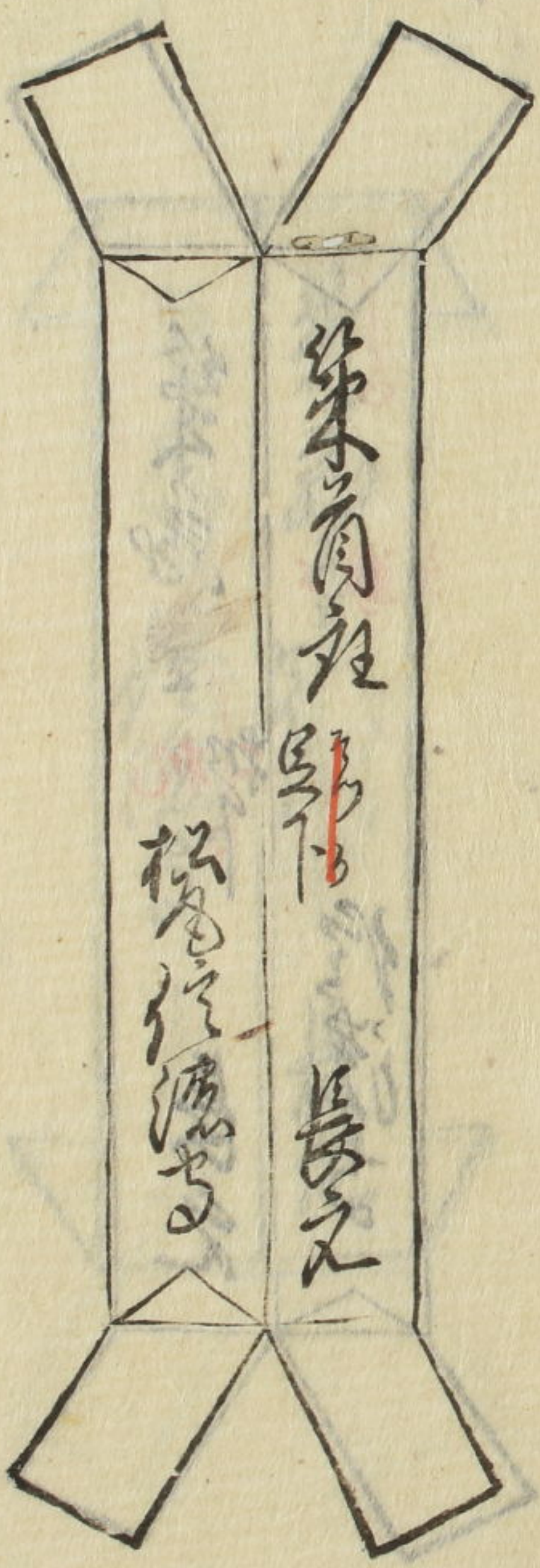
一 長尾の字もか
 一 中へおきて
 一 長尾の字もか

一 此の返封は...
五



一 此の返封は...
一 此の返封は...
一 此の返封は...

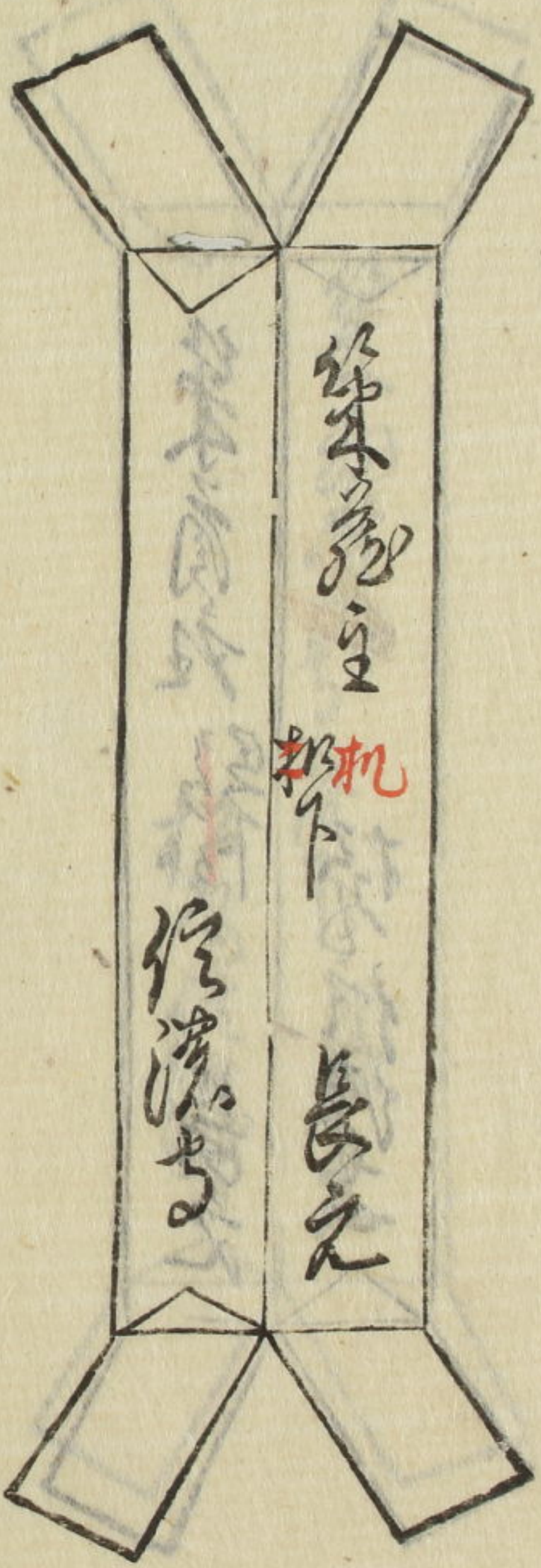
一 此の返封は...
一 此の返封は...
一 此の返封は...



一 此の返封は...
一 此の返封は...
一 此の返封は...

一 菊のついでに...

...



一 菊のついでに...

...

...



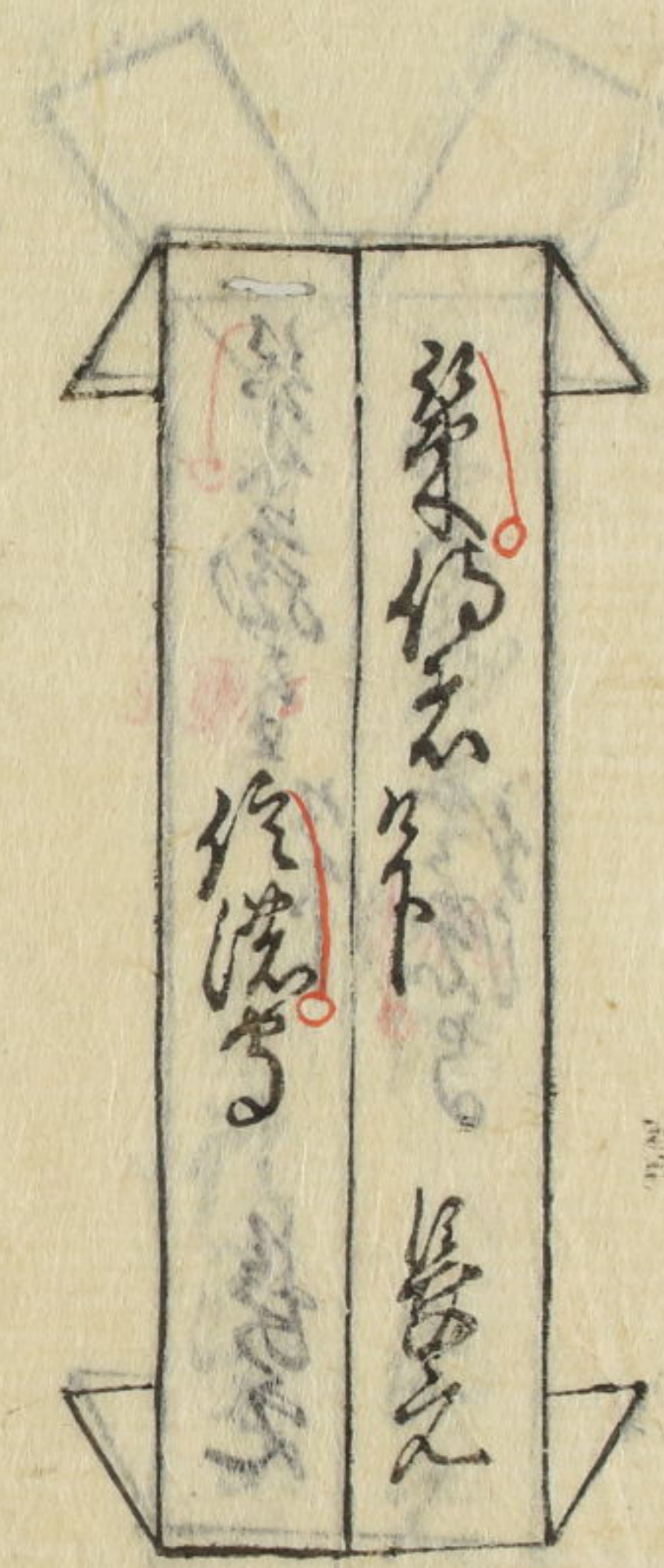
一 菊のついでに...

...

...

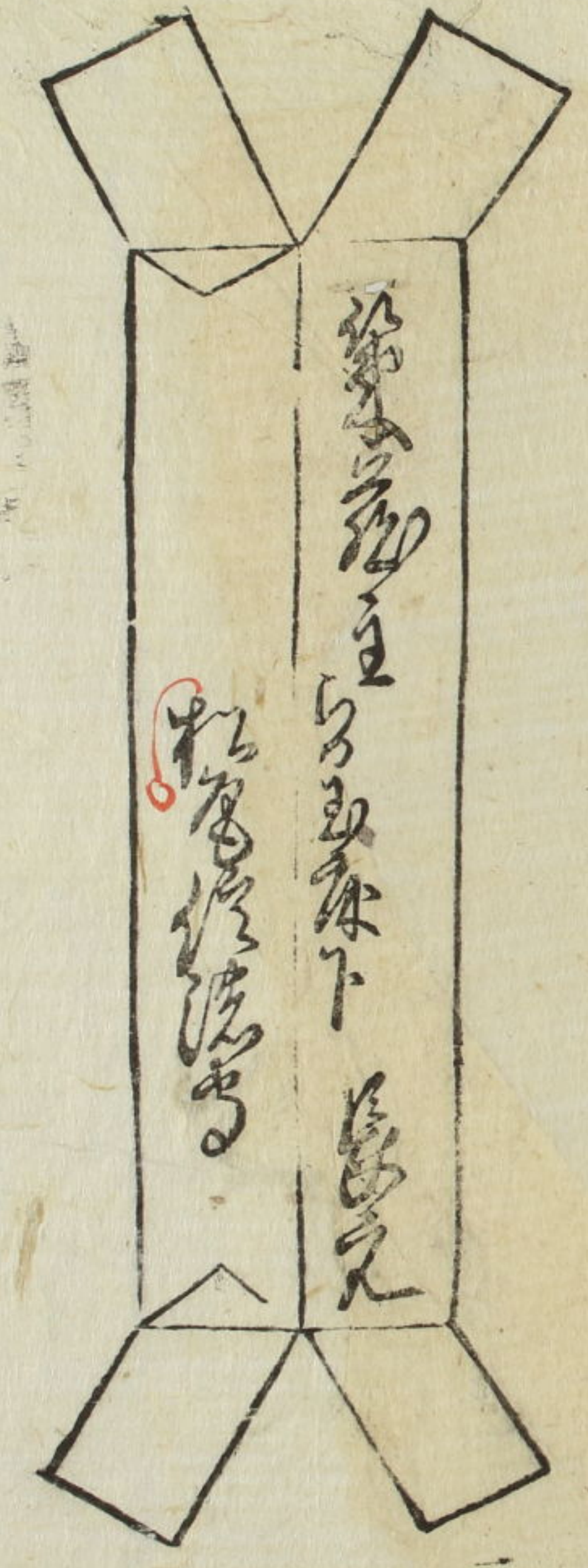
一 物名のうらなひをいふにせむ

一 物名をいふにせむ



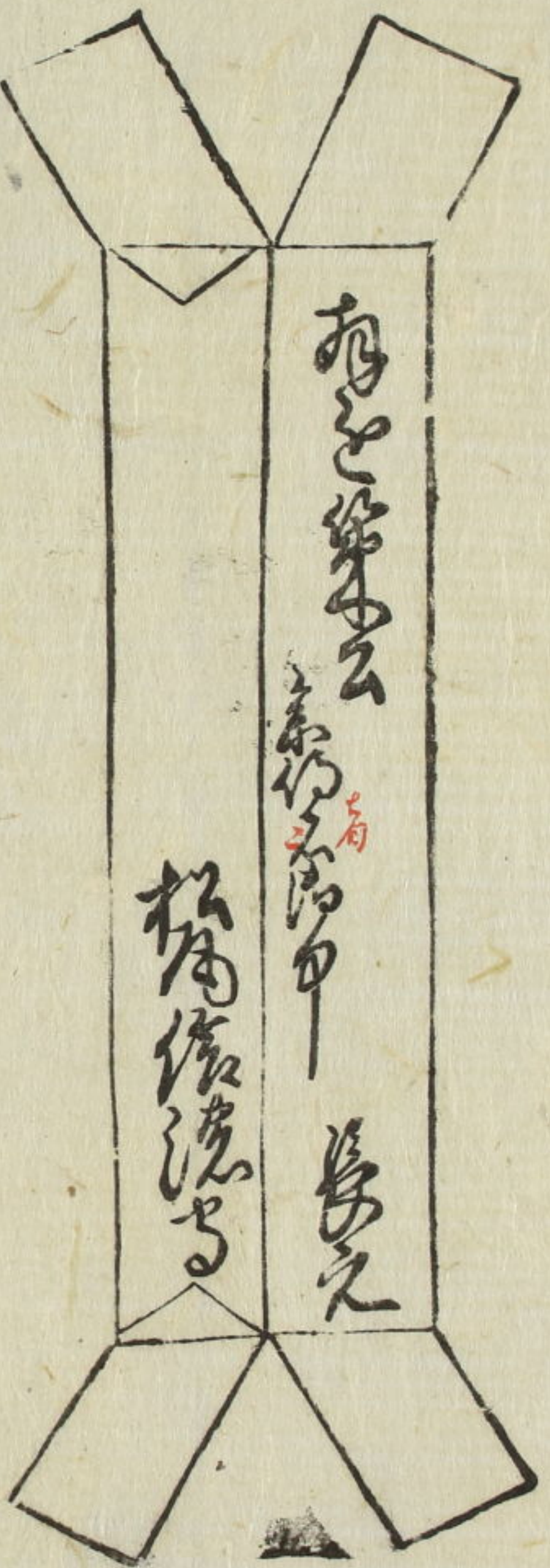
一 物名をいふにせむ
一 物名をいふにせむ
一 物名をいふにせむ

一 物名をいふにせむ
一 物名をいふにせむ



一 物名をいふにせむ
一 物名をいふにせむ
一 物名をいふにせむ

一 是を尋ふ人の酒樽なり。ちまうらうらうら



おとすま

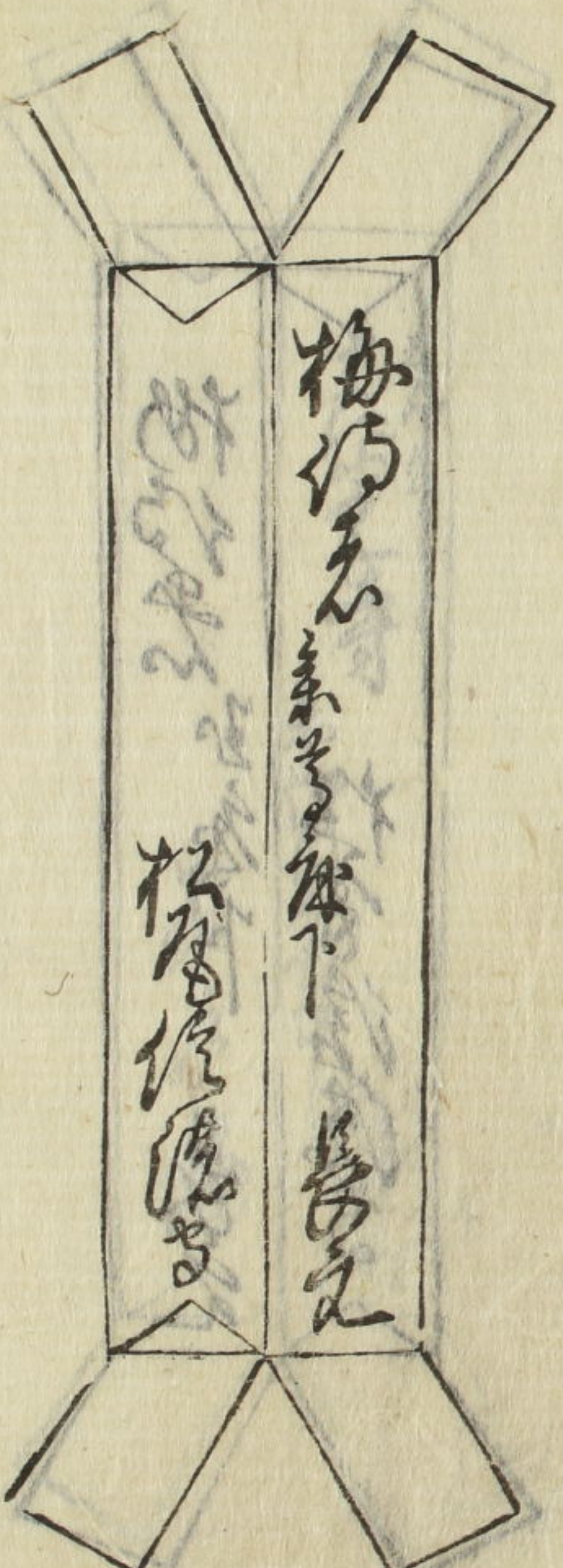
素考

長え

松尾信濃守

いふは酒樽なるものなり。ちまうらうらうら
おとすまの酒樽なり。ちまうらうらうら
とくは酒樽なり。ちまうらうらうら

一 梅のちまうらうらうらうら
ちまうらうらうらうらうら
ちまうらうらうらうらうら
ちまうらうらうらうらうら
ちまうらうらうらうらうら



梅のちま

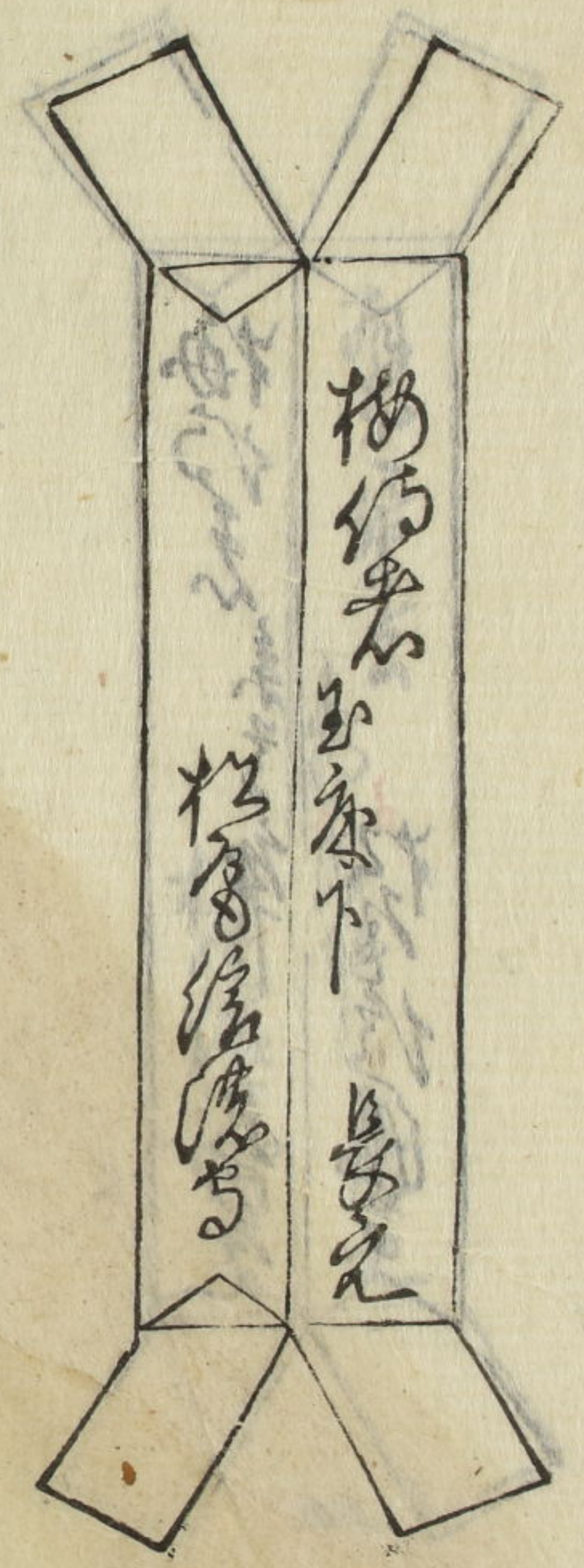
素考

長え

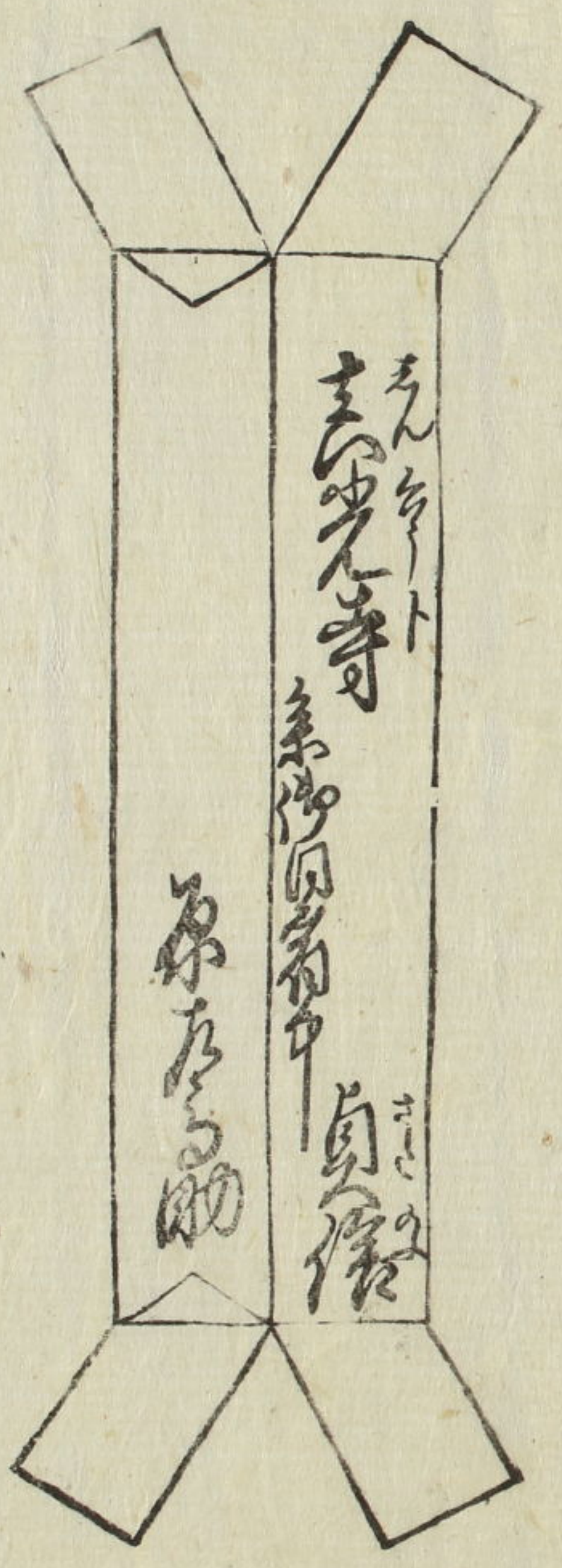
松尾信濃守

一 ちまうらうらうらうら
ちまうらうらうらうら
ちまうらうらうらうら
ちまうらうらうらうら
ちまうらうらうらうら

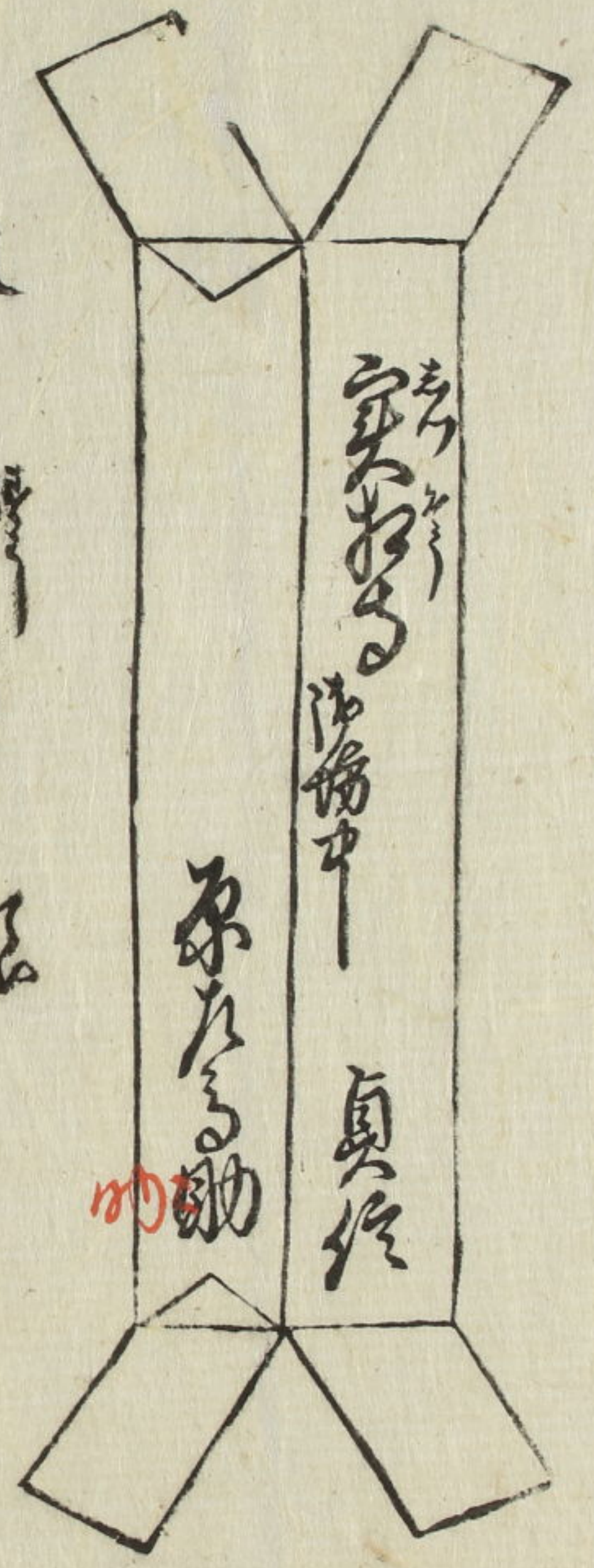
一 諸家入るるを...
お尋ね...
き海く...
七



一 何う...
さら...
一 諸家...
七

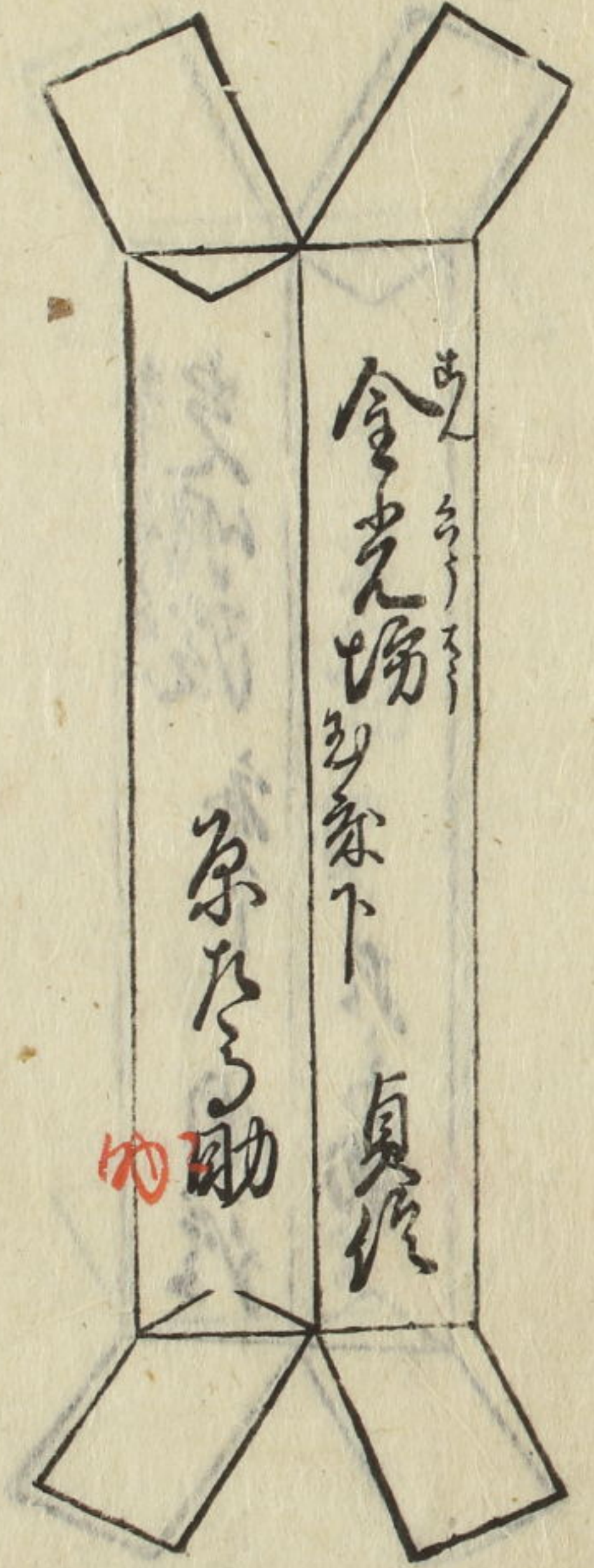


一 此の紙は、（紙） 常の紙に、（紙） 花の紙に、（紙） ちりちり



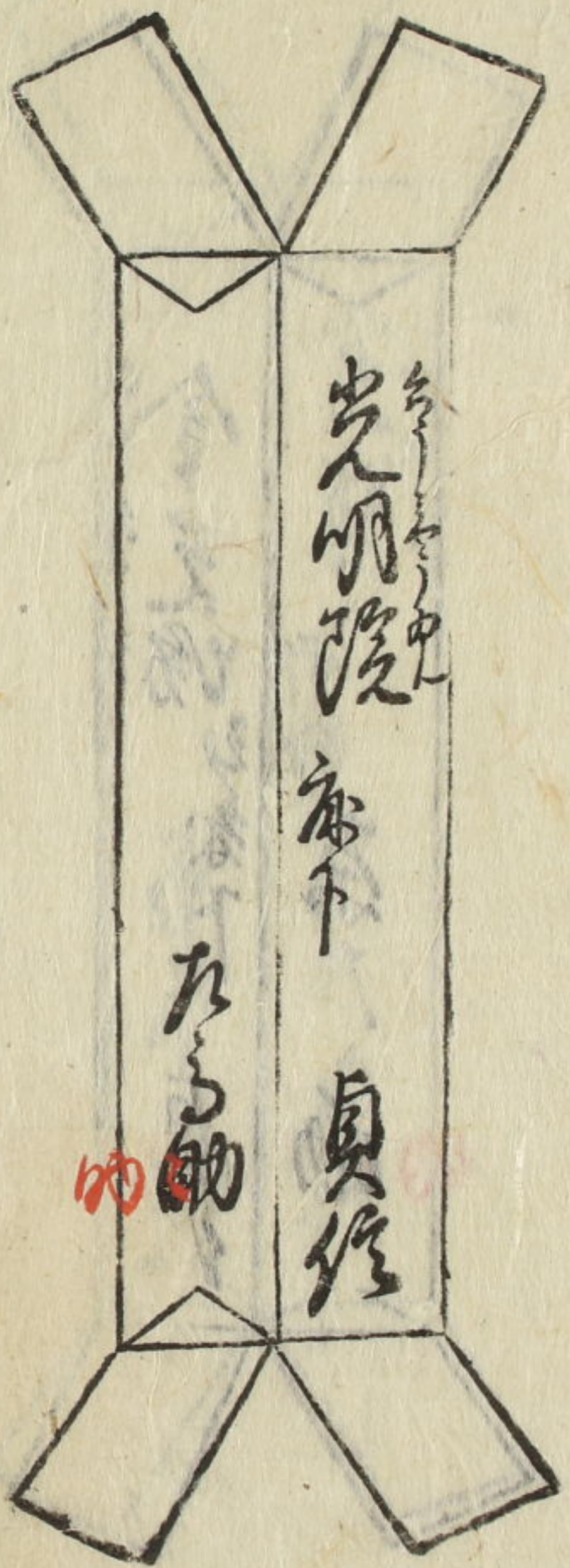
一 此の紙は、（紙） 常の紙に、（紙） 花の紙に、（紙） ちりちり
 一 此の紙は、（紙） 常の紙に、（紙） 花の紙に、（紙） ちりちり

一 此の紙は、（紙） 常の紙に、（紙） 花の紙に、（紙） ちりちり
 一 此の紙は、（紙） 常の紙に、（紙） 花の紙に、（紙） ちりちり



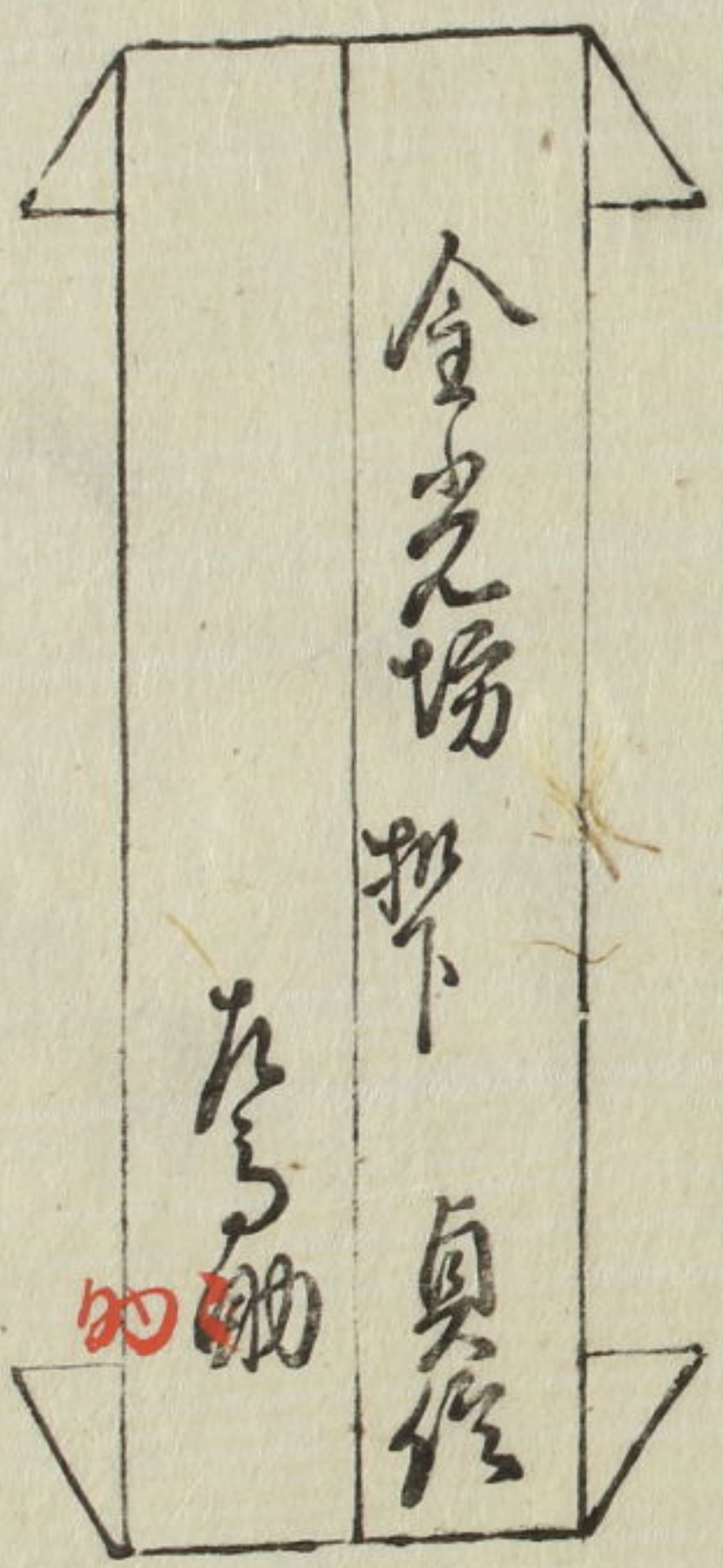
一 此の紙は、（紙） 常の紙に、（紙） 花の紙に、（紙） ちりちり
 一 此の紙は、（紙） 常の紙に、（紙） 花の紙に、（紙） ちりちり

一 中書省... 抄り... 抄り... 抄り...



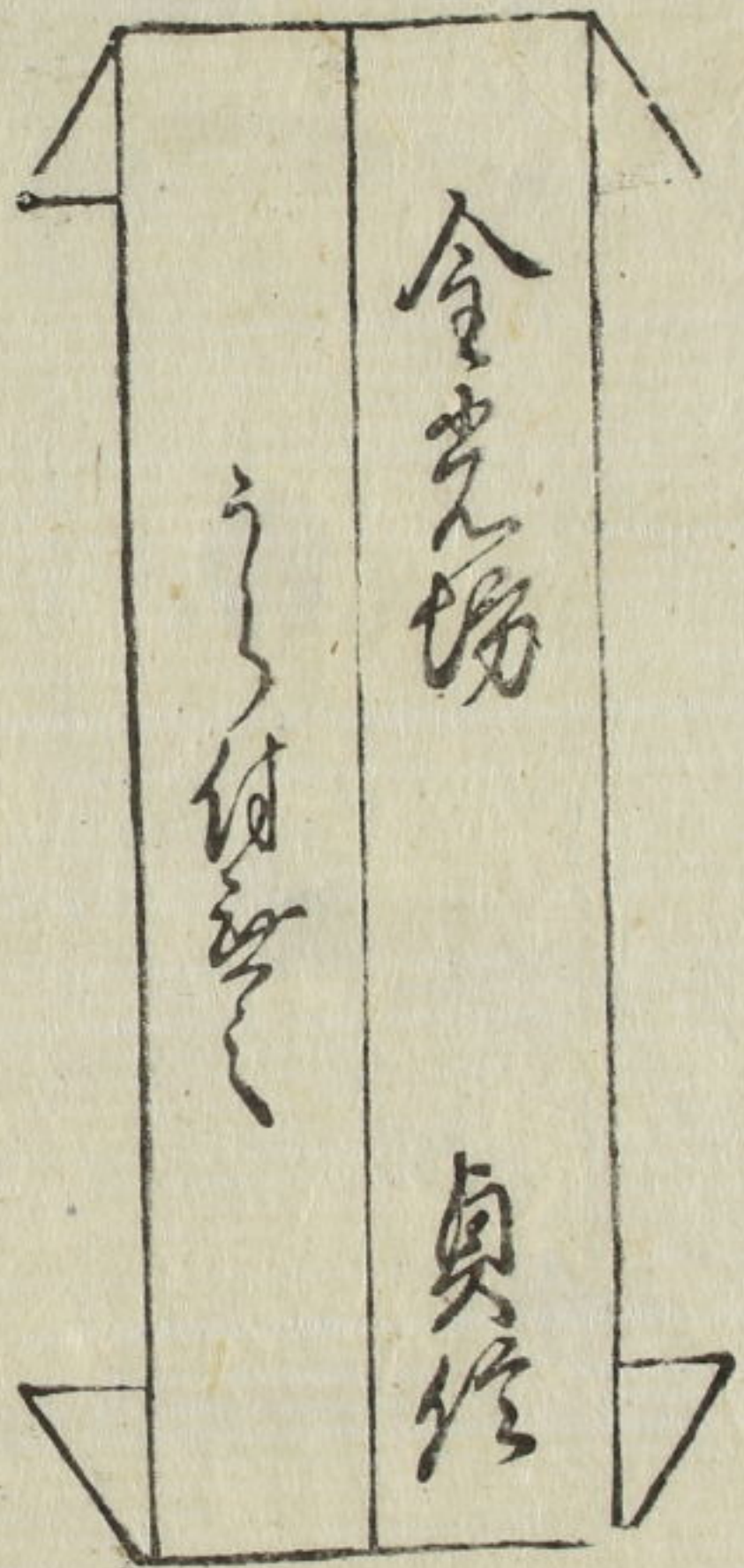
何する... 抄下... 抄り... 抄り... 抄り...

一 中書省... 抄り... 抄り... 抄り...



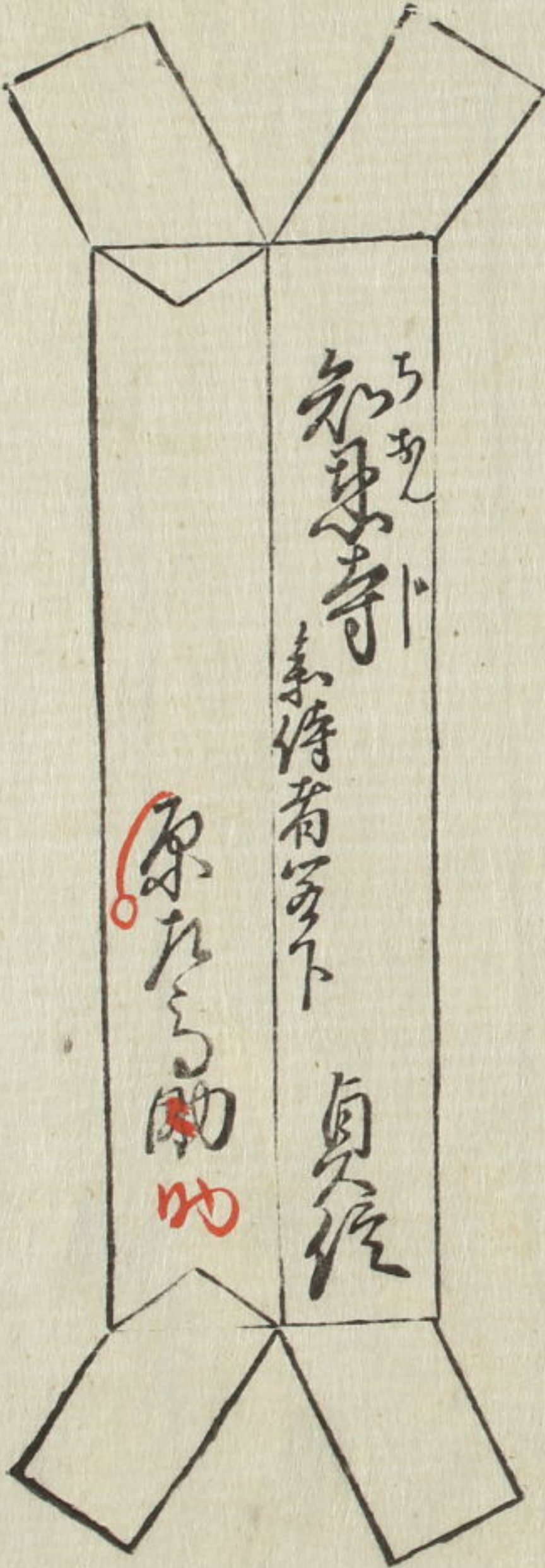
一 中書省... 抄り... 抄り... 抄り...

一 乞ひを致し給ふべきに候はば此の紙を折らば
うらつとまうたさなり



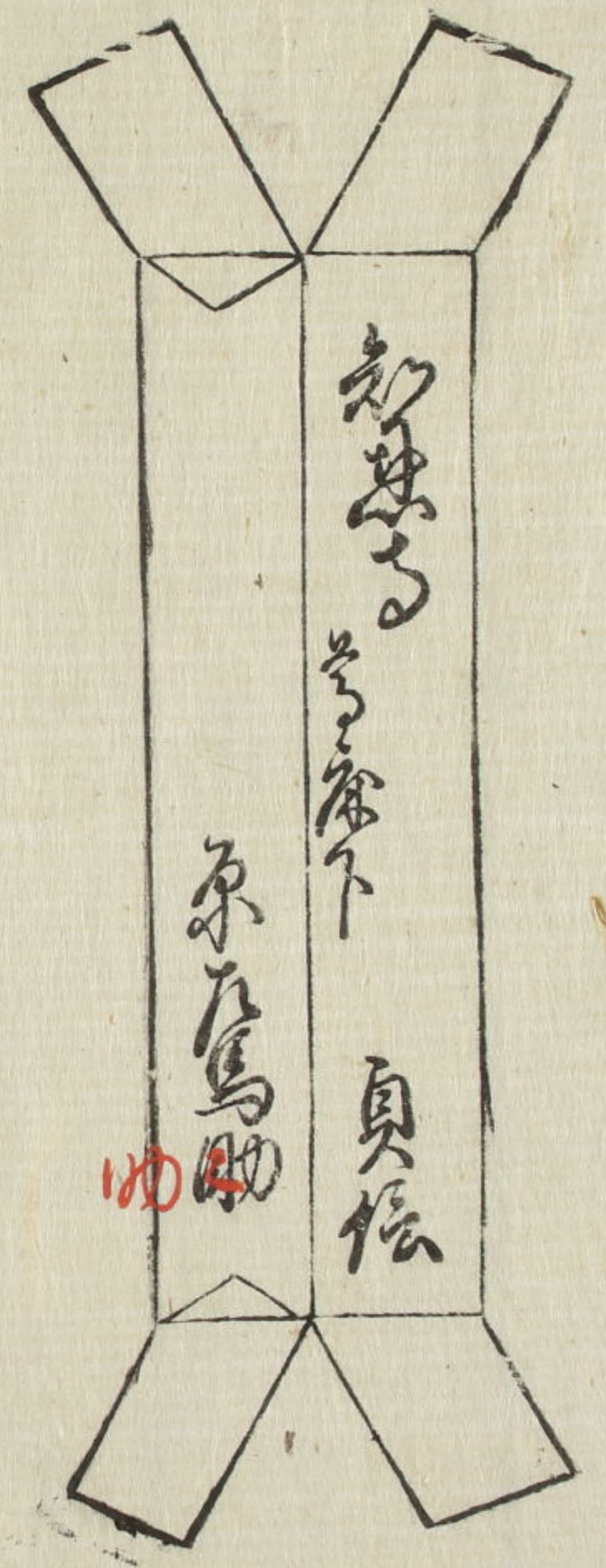
一 此の紙をお家^{あや}あつとまうたさなりのお調^{しらべ}は
あり給ふべきに候はば此の紙を折らば

一 此の紙をお家^{あや}あつとまうたさなりのお調^{しらべ}は
あり給ふべきに候はば此の紙を折らば



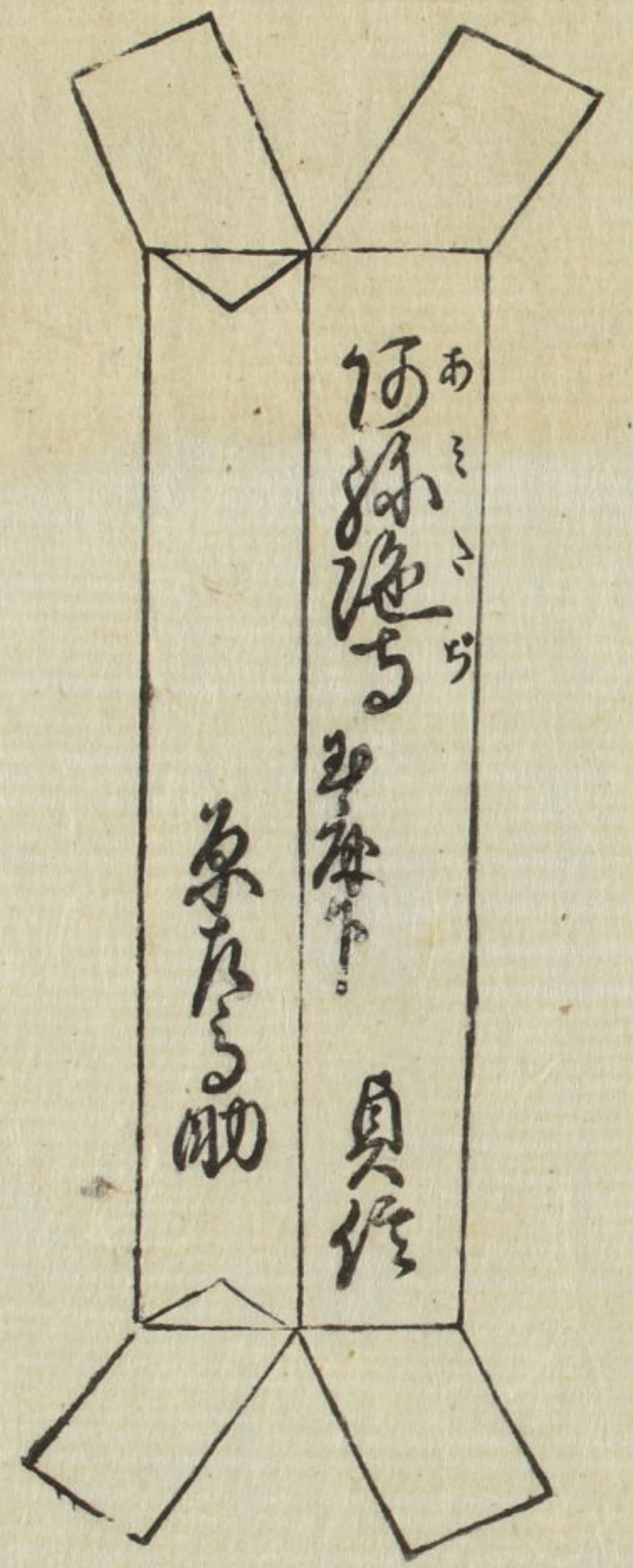
一 此の紙をお家^{あや}あつとまうたさなりのお調^{しらべ}は
あり給ふべきに候はば此の紙を折らば

一 此の紙もまたうらんの紙よりざりぬが、ちよ
 び



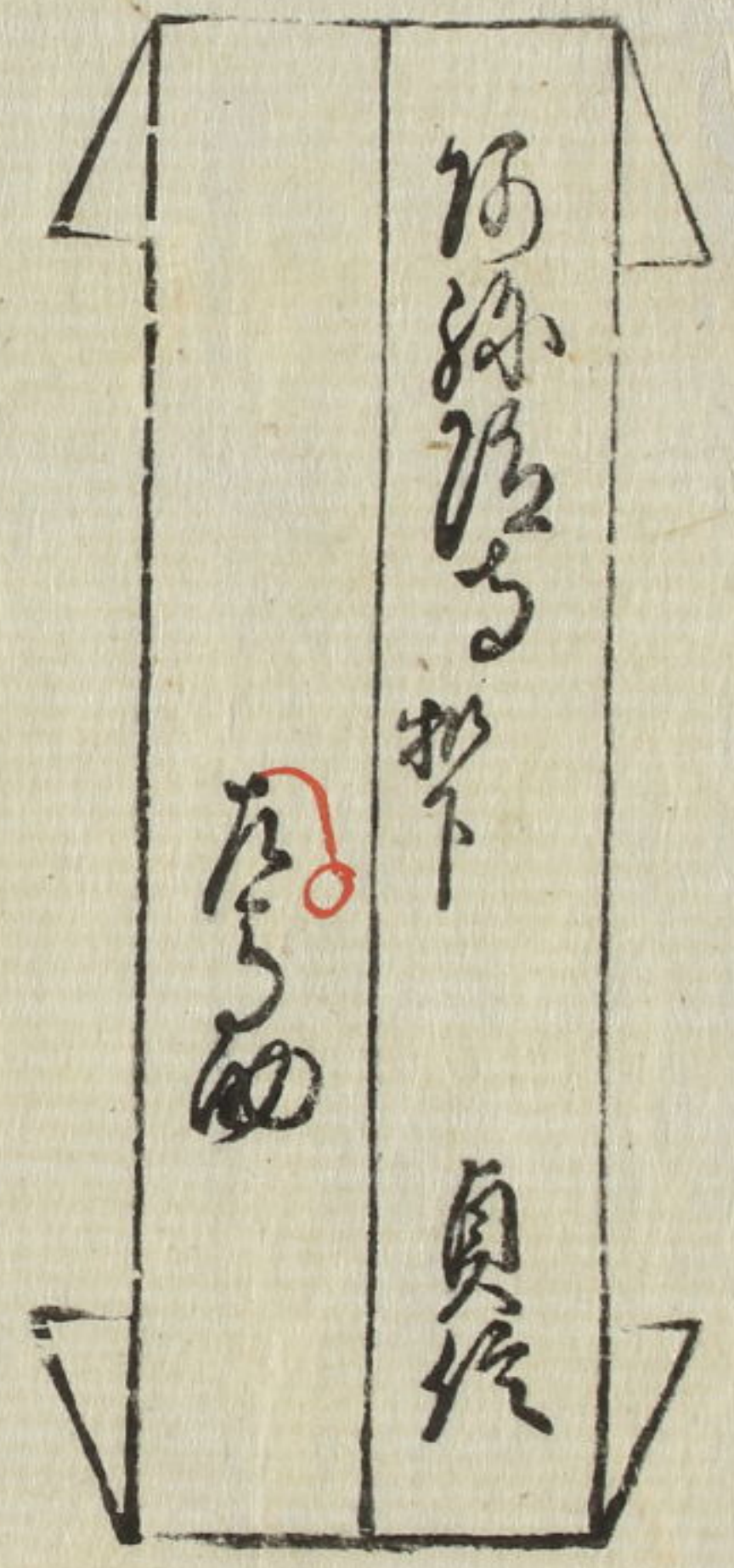
一 此の中にも第一の用紙なりと云ふなり

一 此を浄土宗への紙なりと云ふなり、どうもいふの
 心あるなりと云ふなり、と云ふなり



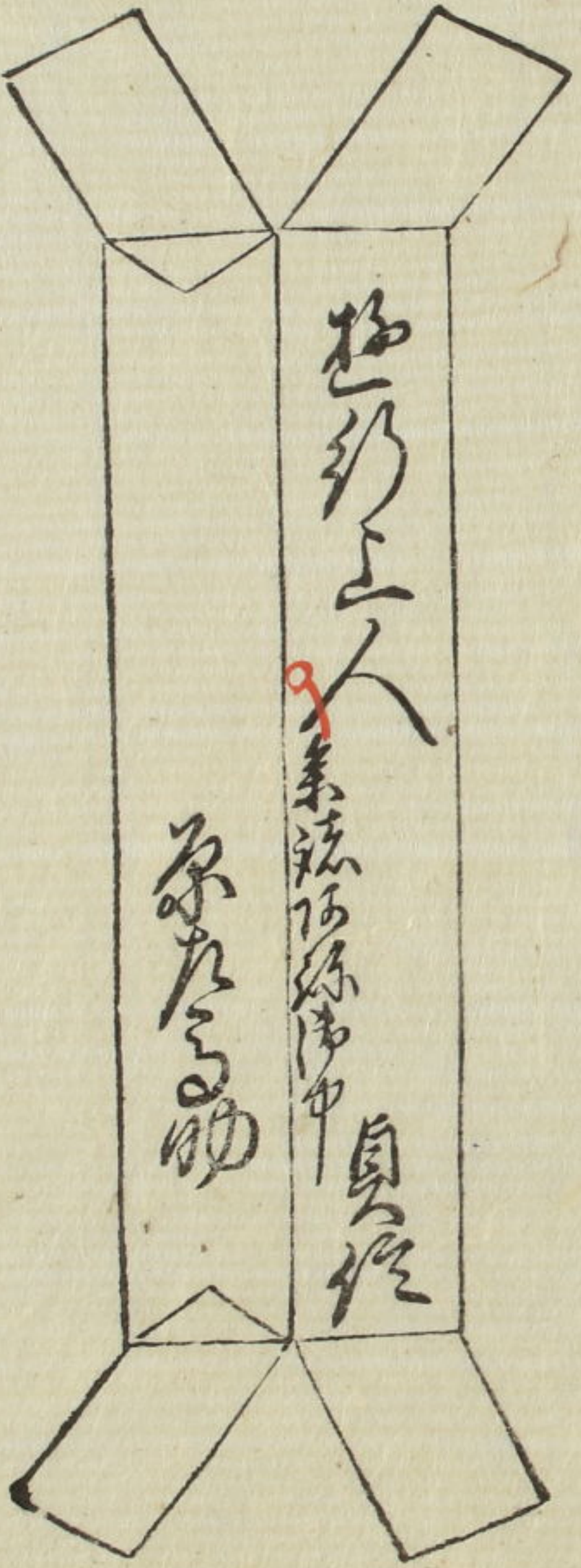
一 此の紙もまたうらんの紙よりざりぬが、ちよ

一 色紙の裏面に書かれたり



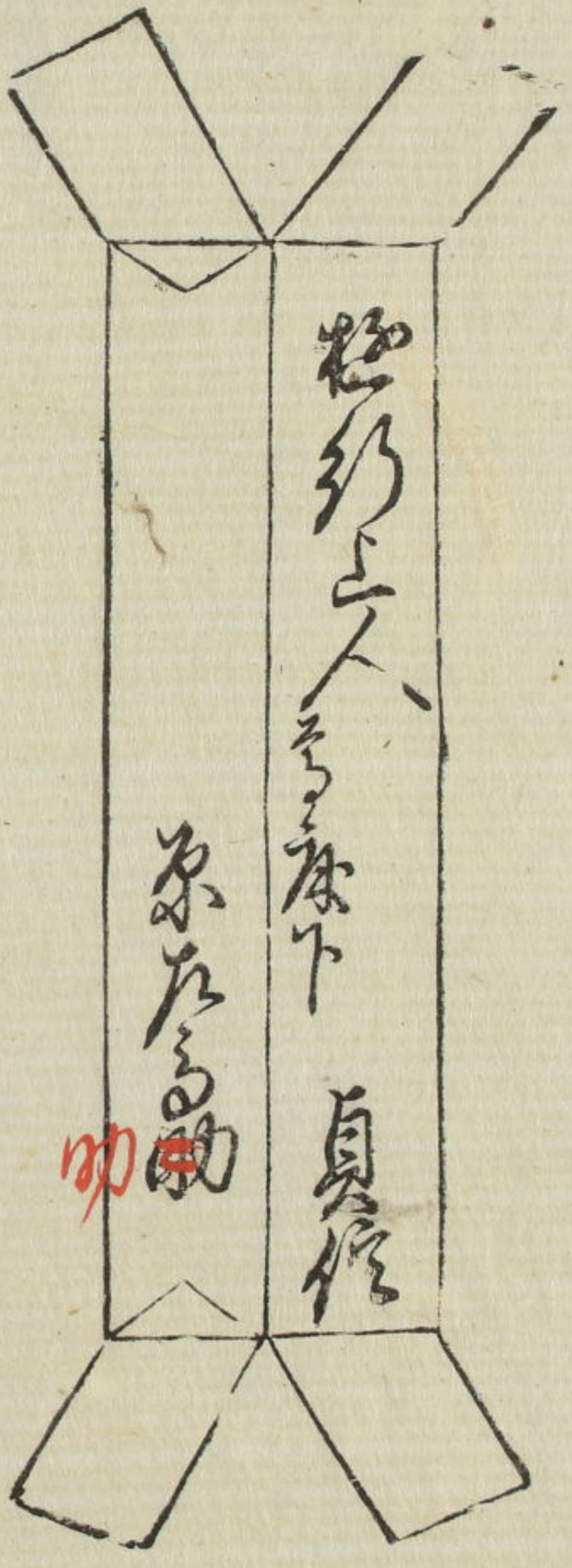
一 封筒の裏面に書かれたり

一 封筒の裏面に書かれたり



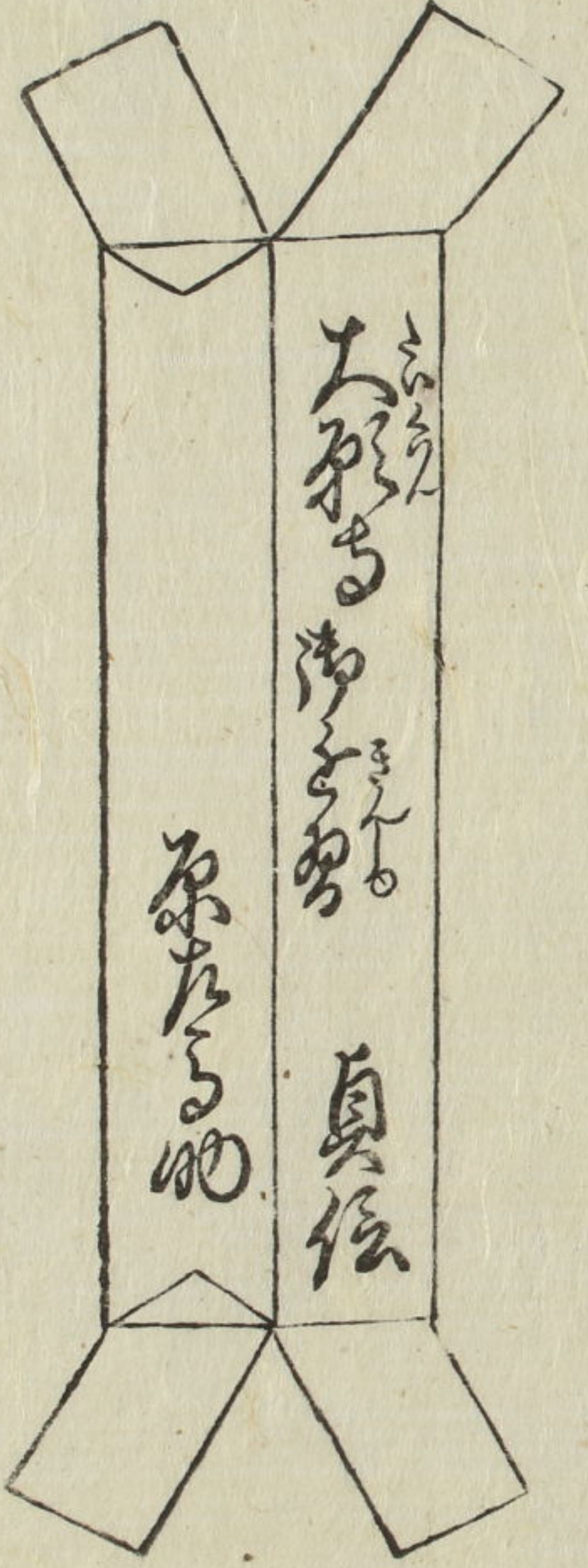
一 封筒の裏面に書かれたり

一 此の紙は...の紙より...
七十五



一 此の紙は...の紙より...
一

一 此の紙は...の紙より...
一



一 此の紙は...の紙より...
一

一 何れか... せんせり人より執下... せんせり人

金田孫五郎

自信

左三郎

山本孫五郎

長孫

留余の文

一 世の世を... たりて金田

一 勝久の... せんせり人

山本孫五郎

長孫

月 松田九郎の文

一 何れか... せんせり人

一 此の御時... 御時... 御時...

一 此の御時... 御時... 御時...

山崎源三郎	松田良忠
以教	大史

一 此の御時... 御時... 御時...

一 此の御時... 御時... 御時...

山崎源三郎	松田良忠
以教	大史

一 此の御時... 御時... 御時...

あはれなる心持にて
あはれなる心持にて

あはれ	あはれ
あはれ	あはれ

あはれなる心持にて

あはれなる心持にて

あはれ	あはれ
あはれ	あはれ

あはれなる心持にて

一 乞ひたり候りしは、
しひる。のちらんら

せうにおおぬ	わ
わんあま	わ

一 候りしは、
おまれ。のちらんら

一 乞ひ
は、候りしは、
のちらんら

	進上	腰行平
○ 御大羽	○ 御馬	○ 御大羽
○ 足		
武田大膳 武田大膳 信玄		

一 ありて三織^ミり人の徳^{とく}なりや中^{ちゆう}一^{いち}とま^まなり
 勿^な海^{うみ}の徳^{とく}なりいけ
 一 一^{いち}

	御 ^{おん} 馬 ^ま	御 ^{おん} 石 ^{いし} 力 ^{りき}
信 ^{しん} 元 ^{げん}	一 ^{いち} 毛 ^{もう} 河 ^が 原 ^{はら}	一 ^{いち} 腰 ^{こし} 巻 ^{まき}
	御 ^{おん} 山 ^{さん}	

一 女^{によ}中^{ちゆう}一^{いち}人の徳^{とく}なり。た^たく^くと^と海^{うみ}の徳^{とく}なり。た^たく^くと^と徳^{とく}なり。

かきつる徳なり

	御 ^{おん} 山 ^{さん}
	御 ^{おん} 石 ^{いし} 力 ^{りき}
月	御 ^{おん} 馬 ^ま
	御 ^{おん} 山 ^{さん}

一 一^{いち}

一 おつぎにやうやくのやうに
お下とさるにうけりあはせり

おつぎにやうやくの <small>うけりあはせり</small>	おつぎにやうやくの おつぎにやうやく <small>うけりあはせり</small>
-------------------------------------	--

一 おつぎにやうやくのやうに
お下とさるにうけりあはせり
おつぎにやうやくのやうに
お下とさるにうけりあはせり

おつぎにやうやくの <small>うけりあはせり</small>	おつぎにやうやくの <small>うけりあはせり</small>	おつぎにやうやくの <small>うけりあはせり</small>
-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------

おつぎにやうやくのやうに
お下とさるにうけりあはせり
おつぎにやうやくのやうに
お下とさるにうけりあはせり
おつぎにやうやくのやうに
お下とさるにうけりあはせり

あぶく
あぶく
あぶく
あぶく
あぶく

あぶく
あぶく
あぶく
あぶく
あぶく

	あぶく	あぶく
	あぶく	あぶく
	あぶく	あぶく

あぶく
あぶく
あぶく
あぶく
あぶく

	あぶく	あぶく
	あぶく	あぶく
	あぶく	あぶく

あぶく
あぶく
あぶく
あぶく
あぶく

わつと網をうたがまはばねるり候へ引合せ也。いひよ
 おりぬいにておづのいひく。いひよぬいひくまへ。
 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。

一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。
 一 何と申下らるるに。いひよぬいひくまへ。

舟のたねをうたがまはばねるり候へ引合せ也

注文

梅子、ヤシ、サトウ、サトウ、サトウ

大目
 織物
 山崎
 白
 鳥
 船
 船
 船

川南サキタニ

一 船
 又
 二
 一 船
 一 船
 一 船
 一 船

一 船
 一 船
 一 船
 一 船
 一 船
 一 船
 一 船
 一 船
 一 船
 一 船
 一 船

廿五

まへにむすびのしるしをいへばいふはけりやうのやうな
あつむいぬ

一 同安といふ名をいへばいふはけりやうのやうな

小倉の大名大膳大夫に御座り候と
右子御息所今交知分給申付は候と御座り候と
此人無事大儀候給申付は候と御座り候と
御座り候と御座り候と御座り候と御座り候と御座り候と

天正八年十一月日

凡し紙也紙すまひは紙なるべし根づつととととととと
紙は紙也紙すまひは紙なるべし根づつととととととと
言ふもさういふもわつていふもさういふもわつていふも
言ふもさういふもわつていふもさういふもわつていふも
言ふもさういふもわつていふもさういふもわつていふも

一 けりやうといふはけりやうのやうな

合右儀志
本末但書に申付
年書月日
各字取何一取

一 又

合右方右者
本末但書に申付
年書月日
各字取何一取

各字取何一取
又字取何一取

本末但書に申付

一 貴教のまじりのあしつばはまといわへしふまは

かしくも御料定といふ事

傍用中料定し

合入松受文書

右の傍用中書也。松受別文松受宛付て來付也。此の
毎十者也。天下同一の徳政治定之制の中合し
文の不可不守也。後は一冊世傳に合意背致す。河津
志の約を本とし奉りお寄附可致押通人。河津
及一冊し子細也。傍扶出拜

年号月日

名義別

傍一敷書

大のし強るるのびわらあきとく。見あましとて
る。此の約はなり。るる。は。の。う。ま。わ。く。り。の。約。は。ん。
作是。御。寄。り。中。を。り。り。も。わ。ら。れ。極。く。後。は。松。受。
中。の。う。あ。ら。る。る。也。極。く。ら。ぬ。べ。

一 うらまのうらりんのむもじき

貴後田地之事

合入及名をあらむ名

右の松受代知り。松受也。松受は。御用派派代
貴後。う。い。て。の。り。の。中。松。受。の。也。無。地。切。り。は。知
り。の。事。御。通。り。説。文。御。派。派。を。り。は。う。ま。の。お。り。孫。孫
不。可。も。御。派。派。の。事。也。御。派。派。扶。出。拜
凡。は。教。る。り。の。事。も。る。り。に。一。冊。ん。よ。の。あ。れ。わ。る。べ。う。は

いふことより多しと云はるべし。然れども、
さるがんぢののどくも、
やくせいよあぢを、
あうのらさやうごらういれらるるは、
とくさうぢ也
一 知れおの代々職人よ中一合時主ごらのぬらん
ぬ事一

山城をなむとて、
石原三ヶ年申合志也。年々知事お下。教
可い執事沙法第一は、
のりは、
年々八月日
いふ事
お事判

白下日記

何一収

ふとびを、
とらさうことまはて、
とさうじへ下、
を、
よあはるるべし、

代々乃、
分、
わ、
あ、
あ、

年々八月日

いふ事
お事判

九二

